

北海道立中央農業試験場

農芸化学部土壌改良科

昭和 4 5 年度

# 地力保全基本調査成績書

〔日高沿海地域 新冠町・静内町〕

北海道立中央農業試験場

49

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揮できない場合が少ないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和45年度に行なつた11地域28市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し宮農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和46年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠 雄

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

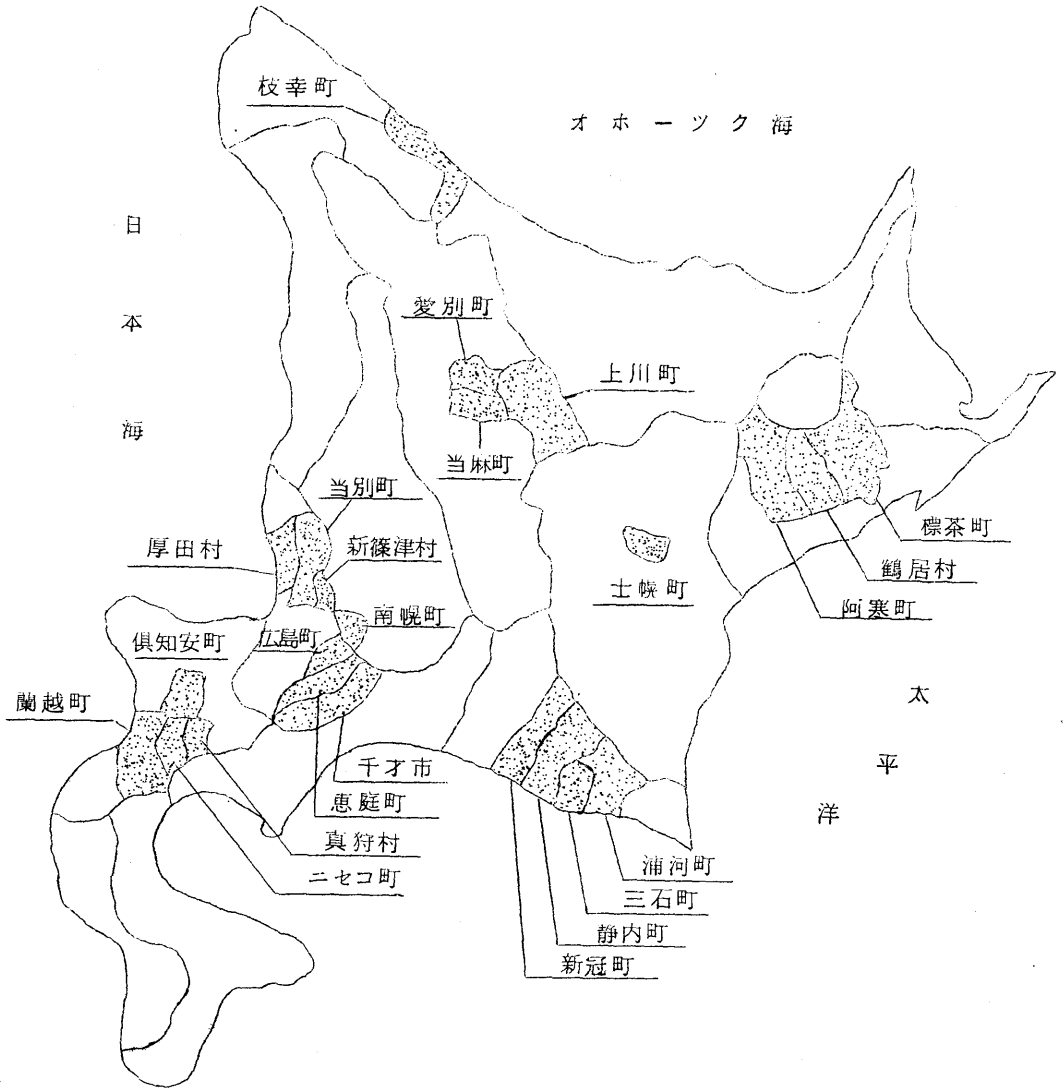
- 1 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
- 2 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部第3課）による。
- 3 土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤肥料第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	森	哲	即	
土壤改良科	科 長	後 藤	計	二	
	第1係長	小 林	荘	司	
	研究職員	水 元	秀	彰	
	”	伊 東	輝	行	
	”	木 村		清	
	”	松 原	一	実	
	第2係長	山 口	正	栄	
	研究職員	小 林		茂	
	”	宮 脇		忠	
	”	山 本	晴	雄	
	”	高 橋	市	十郎	
	”	上 坂	晶	司	
	十勝農試	菊 地	晃	二	
	”	関 谷	長	昭	
	”	横 井	義	雄	
	北見農試	秋 山	喜	三郎	
	上川農試	野 崎	輝	義	
	”	土 居	晃	郎	
	天北農試	奥 村	純	一	

1 調査地域一覽

調査地域名	該当市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
石狩川下流	当別町	4,969	4,748	—	—	4,969	4,748
	新篠津村	3,831	1,017	—	—	3,831	1,017
石狩北部沿海	厚田村	617	1,605	—	—	617	1,605
石狩川下流	南幌町	4,688	1,030	—	—	4,688	1,030
羊蹄山麓	俱知安町	1,263	3,153	—	—	1,263	3,153
	具狩村	276	3,788	—	1,700	276	2,088
	ニセコ町	563	3,537	—	2,900	0	637
ニセコ山麓	蘭越町	2,188	2,104	—	—	2,188	2,104
日高沿海	新冠町	676	5,282	—	—	676	5,282
	静内町	948	3,353	—	—	948	3,353
	涌河町	730	2,917	—	—	730	2,917
	三石町	1,188	1,245	—	—	1,188	1,245
阿寒	阿寒町	20	2,897	—	—	20	2,897
	鶴居村	0	2,223	—	—	0	2,223
石狩南部	千才市	939	3,465	—	—	939	3,465
	恵庭市	3,161	2,413	—	—	3,161	2,413
	広島町	1,018	2,063	—	—	1,018	2,063
上川中部	上川町	851	665	—	—	851	665
	愛別町	1,803	669	—	—	1,803	669
	当麻町	4,071	863	—	—	4,071	863
枝幸、雄武	枝幸町	0	2,558	—	—	0	2,558
弟子屈	標茶町	0	10,150	—	—	0	10,150
上士幌	士幌町	13	11,680	—	1,500	13	10,180
合 計		33,813	73,425		6,100	33,250	67,325

# 調査地区位置図



# 日高沿海地域 新冠町・静内町

## 1 地区の概況

### 1) 位置及び調査面積

#### (1) 位置

北海道新冠郡新冠町

静内郡静内町

#### (2) 調査面積 (ha)

都市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調査面積		
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地
新冠郡新冠町	676	5,282	—	5,958	676	5,282	—	5,958	—	—	—
静内郡静内町	948	3,353	—	4,301	948	3,353	—	4,301	—	—	—

(41)	本年度調査面積				次年度以降調査計画面積				備 考
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
—	676	5,282	—	5,958	—	—	—	—	
—	948	3,353	—	4,301	—	—	—	—	

### 2) 気 候

本地区は北海道の気候区分のなかで太平洋側西部の気候区に属し年間を通じ温暖で雨量も適度であるが、6～7月には海霧が発生し、日照時間を減少せしめている。静内観測所の成績を示すと次表の如くである。

項 目		月 別							
		4	5	6	7	8	9	10	
気 温 (℃)	平 均	5.3	10.1	14.4	19.2	21.5	17.5	11.6	
	最高平均	10.1	15.0	18.5	22.9	25.4	22.2	16.9	
	最低平均	0.5	5.1	10.3	15.4	17.6	12.7	6.3	
降水量(mm)	平 均	82	89	95	133	114	140	117	
日照時間(相対観測所)		208.5	208.3	173.0	143.0	164.2	179.2	186.9	

初霜 10月16日(10月5日)      晩霜 5月10日(5月15日)

( ) は静内町御園の成績

### 3) 土地条件

#### (1) 地 形

本地区は日高山脈南部の西側をリビラ川、比宇川等と合した厚別川、中央部には日高山系よ

り発した新冠川と静内川が東北方より西南に流れ、更に東南部には平別川、布辻川等の小河川が存在し、いずれも太平洋に注いでいる。これらの河川流域には河成段丘及び低平地が形成され、特に厚別川、新冠川、静内川流域には広大な沖積氾らん原と数段の段丘が分布しており、新冠・静内両町の主要な農業地帯となつている。これらの背後は標高200～400mの新第三系の分布する山地となつている。

## (2) 地質

日高変成帯の南西端部で山地は主として中生層や新第三紀のものよりなり、従つてこれらを母材とした堆積物により段丘、低平地及び扇状地が形成されているが、土壤は殆んどが樽前山、有珠山等の火山噴出物で被覆されている。これらの火山噴出物の概要を示すと次のとおりである。

### 樽前山火山灰 b 層 (Ta-b)

粒径0.5～1mmの淡黄灰色の浮石砂で暗灰～黒色の微粒岩片を多量に混入し10～20cmの層厚で本地域に分布し、北部に層厚を増す。未風化物であるが地表かつ堆積膨軟で全層に腐植を含有し、作土となつている。

### 有珠山火山灰 c 層 (U-c)

前層の直下に累積する粒径2mm内外の白色の浮石砂で本地域には10～15cmの層厚で堆積している。膨軟な堆積であるが根群の伸長を阻害している。

### 樽前山火山灰 c 層 (Ta-c)

前層の直下に累積し、土性は触感でCLを呈する。腐植を多量に含有し、層厚は5cm内外で保水性・附着性が強い。

### 支笏ローム (S10) 及び支笏降下軽石堆積物 (Spfa)

洪積世の堆積物で層厚は1～1.5mで北部に向かって減ずる傾向がある。60cm程度がローム化し上部30cm程度は腐植を多量に含有し黒色を呈し附着性が強い。本層は水の作用を受けたと見られるものが多い。降下軽石堆積物の存在するところは極めて少なく、南部の台地の頂部に見られるにすぎない。

## (3) 侵蝕状況

土壤が前記した諸火山灰よりなるため、台地上の傾斜地・緩傾斜地では水蝕による被害がみられる。特にこの地帯は軽種馬の産地であるため粗放な管理により土壤侵蝕を助長していることも少なくない。

## (4) 土地利用及び営農状況

### 新冠町

#### (1) 専兼業別・経営形態別農家数と農業従事者数

農家 総数 (戸)	専業 (戸)	兼業 (戸)	自給 (戸)	経営形態別農家数 (除自給農家) (戸)					従事者数 (人)		
				出作	畑作	出畑作	酪農	混同	世帯員	常雇	臨時雇(延)
641	452	131	58	75	44	57	216	191	1,706	41	2,471

## (2) 経営耕地面積

	総 数	田	畑	牧草地	樹園地	その他	土地総面積に対する割合
総面積(ha)	4,035	737	1,212	2,068	19		6.9%

## (3) 主要農作物作付面積と収量

	水 稻	えん麦	大豆	小豆	菜豆	馬鈴薯	てん菜	デント コーン	大 根	キャベツ	白 菜
作付面積(ha)	712	462	70	143	10	88	51	442	20	8	8
10a当収量(kg)	464	179	144	137	138	1,340	2,680	4,390	3,100	2,760	2,400

## (4) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

	牛		馬	豚	めん羊	にわ とり	牛乳生 産量(t)
	乳用	肉用					
総数(頭羽)	31	85	1,735	172	18	4,253	5,975
農家数(戸)	359	30	490	67	12	278	

## (5) 農用機械所有数

	農家数(戸)	台数(台)	
10馬力未満	個人有	193	205
	共有	7	2
10馬力以上	個人有	84	85
	共有	69	12

当町は新冠川を主とする河川流域の低平地において水田作が行なわれ、段丘及び台地等において畑作、酪農、混同といった形態の経営がなされている。いずれもその生産量は高くない。またこの地帯は軽種馬の有効な産地として知られているが牧草など飼料作物は低生産地に対する未改良などによりその生産も概して低い。関係機関の指導力を強化し、管理技術の高度化及び合理化をはかるよう努力する必要がある。

## 静内町

## (1) 専兼業別・経営形態別農家数と農業従事者数

農家 総数 (戸)	専業 (戸)	兼業 (戸)	自給 (戸)	経営形態別農家数(除目給農家)(戸)					従 事 者 数(人)		
				田 作	畑 作	田畑作	酪 農	混 同	世帯員	常 雇	臨時雇(延)
846	435	153	258	140	20	52	95	281	2,112	195	27,471

## (2) 経営耕地面積

	総 数	田	畑	牧草地	樹園地	その他	土地総面積に対する割合
総面積(ha)	2,377	805	403	1,167	2		2.9%

## (3) 主要農作物作付面積と収量

	水 稻	えん麦	大豆	小豆	菜豆	馬鈴薯	デント コーン	大 根	キャベツ	白 菜	キュウリ
作付面積(ha)	900	295	9	53	2	73	233	25	13	11	7
10a当収量(kg)	494	180	143	134	137	1,470	4,420	3,250	2,890	2,350	1,850



(4) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

	牛		馬	豚	めん羊	にわとり	牛乳生産量(t)
	乳用	肉用					
総数(頭羽)	1,192	105	2066	359	6	10657	2,295
農家数(戸)	262	17	491	124	7	344	

(5) 農用機械所有数

		農家数(戸)	台数(台)
		10馬力未満	個人有 共有
10馬力以上	個人有 共有	106 2	108 1

静内川を主とする河川流域では水田作がなされ、段丘地及び台地では畑作をはじめ酪農や混同経営が行なわれているが、当町も未改良な土壌が殆んどで生産性は低いほうである。関係機関の強力な行政及び営農の指導を徹底し、農業技術の高度化と合理化を推進する必要がある。

## 2. 土壌類型区分及び説明

### 1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

#### (1) 土壌統一覧

(水田)

土壌 統名	色層序	腐植層序	礫層・砂 礫層・礫 を混在す る砂層	酸 化 沈積物	土 性		泥 炭	黒 泥	グ ライ	母 材	堆積様式	目 次
					表土	次層						
神 森	YR/YR	表層多腐 植 層	な し	あり	強粘質	強粘質	なし	なし	なし	非固結水 成 岩	水 積 (河成)	6
目 名	"	表層腐植 層なし	あ り (5cm以下)	"	壤 質	壤 質	"	"	"	"	"	9
中 野	YR/Y	表層多腐 植 層	な し	"	"	強粘質	"	"	"	非固結火 成 岩 非固結水 成 岩	風積(火 山性) 水 積 (河成)	13
東 別	"	全層多腐 植 層	"	"	粘 質	粘 質	あり	"	"	非固結火 成 岩 ヨシ主材	水 積 (河成) 集積(低 位泥炭)	16
大 富	Y/YR	表層腐植 層なし	"	"	"	強粘質	なし	"	"	非固結水 成 岩	水 積 (河成)	19
東 川	"	"	"	"	壤 質	粘 質	"	"	"	"	"	22
静 内	"	"	あ り (15cm以下)	"	強粘質	壤 質	"	"	"	"	"	25

(畑)

土 壤 統 名	色層序	腐植層序	澱層、砂礫 層、礫を混 在する砂層	酸 化 沈積物	土 性		母 材	堆 積 様 式	目 次
					表 土	次 層			
貝 歌	YR/YR	表層 腐植層	あ り (6.2cm以下)	な し	壤 質	壤 質	非固結火成岩	風積(火山性)	2 8
御 園	"	"	な し	"	"	砂 質	"	"	3 1
リビラ	"	"	"	"	砂 質	粘 質	"	"	3 4
川 合	"	表層 多腐植層	あ り (4.5cm以下)	"	壤 質	強粘質	" 固結水成岩等	" 洪 積	3 7
西 川	"	"	な し	"	"	"	"	" "	4 0
郎 婦	"	"	"	"	"	粘 質	"	" "	4 3
田 原	"	"	あ り (6.3cm以下)	"	"	壤 質	" 非固結水成岩	" 水積(河成)	4 6
上豊畑	"	表層 腐植層	" (4.0cm以下)	"	"	"	" 固結水成岩等	" 水積(扇状堆土)	4 8
高 江	"	表層 多腐植層	" (4.7cm以下)	"	"	粘 質	"	" "	5 1
朝 日	"	表層腐植 層なし(埋 没土層)	な し	"	砂 質	砂 質	"	" "	5 4
豊 畑	"	表層腐植 層なし	"	あ り	粘 質	粘 質	固結水成岩等	水積(扇状堆土)	5 7
浦 和	Y R/Y	表層 腐植層	あ り (21~31cm)	"	"	礫 質	"	"	6 0
農 屋	YR/	"	" (1.5cm以下)	な し	"	"	"	"	6 2
駒 場	YR/YR	全層多腐 植 層	な し	"	壤 質	泥 炭	非固結火成岩 ヨシ主材	風積(火山性) 集積(低位泥炭)	6 5

## (2) 土壤区一覽

(水田)

土 壤 区 名	簡略分級式	面積 (ha)	備 考	
神 森 - 神 森	IIpf	212	農牧適地面積 ha 694	
目 名 - 目 名	IItlna	421		4,239
中 野 - 中 野	IIfn	88		456
東 別 - 東 別	IIpfa	75		1,055
大 富 - 大 富	IItpf	376		1,860
東 川 - 東 川	IIfn	214		2,597
静 内 - 静 内	II dgplfia	238		1,450

(畑)

土 壤 区 名	簡略分級式	面積 (ha)	備 考	
真 歌 - 真 歌	IIIfn II dse	394	農牧適地面積 ha 1,021	
御 園 - 御 園	II fni	697		1,037
リビラ - リビラ	II fnse	2,855		9,873
川 合 - 川 合	III d II fnse	383		1,105
西 川 - 西 川	III s II tfne	181		901
節 婦 - 節 婦	III s II fe	1,063		4,373
田 原 - 田 原	III fn II d	108		156
上豊畑 - 上豊畑	III d II nise	341		744
高 江 - 高 江	II dfnis	485		1,277
朝 日 - 朝 日	III fn II tise	988		2,589
豊 畑 - 豊 畑	II tpns	157		410
浦 和 - 浦 和	II tpwfni	355		1,316
農 屋 - 農 屋	III dni II tg	278		849
駒 場 - 駒 場	III wfn II ta	350		1,841

## 2) 土壤統別説明

## 神 森 統

## (1) 土壤統の概説

## A 土壤統の特徴

## A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後、腐植含量10%内外、土性はL(触感)を主とする。色は10YRで明

度1～2、彩度1。構造は粒質状を呈する。糸根状・膜状斑含む、ち密度15前後で疎、PH (H<sub>2</sub>O) 5前後、下層との境界平坦判然。

第2層は厚さ25cm前後、腐植含量10%内外、土性Cを主とする。色は10YRで明度2、彩度1～2、構造は中度の細粒状と弱度の粒状及び弱度の細塊状の複合を呈し、細孔富み、小孔を含む。ち密度16前後で疎、PH (H<sub>2</sub>O) 5前後、下層との境界は平坦明瞭。

第3層は厚さ20cm前後、腐植を欠く、土性はC～CLである。色は10YRで明度5、彩度3～4、弱～中度の塊状構造で細小中孔を含み、雲状斑を含む。ち密度21前後で中、PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後、下層との境界は平坦漸変。

第4層は概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はC～CLである。色は10YRで明度5、彩度3～4、弱度の塊状構造で細小中孔を含み雲状斑に富む。ち密度21前後で中、PH (H<sub>2</sub>O) 6前後。

### 代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町神森 試坑No. S12

第1層	0～20cm	腐植頗る富む黒(10YR2/1)のLic(触感L)。構造は粒質状。膜状糸根状斑含む。ち密度15で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り湿、境界判然
第2層	20～43	腐植富む黒褐(10YR2/2)のHC。中度の細粒状と弱度の粒状細塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度16で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り半湿、境界明瞭
第3層	43～65	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/3～4)のHC。弱～中度の塊状構造。細小中孔含む。雲状斑含む。ち密度21で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り半湿、境界漸変
第4層	65～	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/3～4)のLic。弱度の塊状構造。細孔富み、小中孔含む。雲状斑富む。ち密度21で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.9。調査時の湿り湿～半湿。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土 性	現地容積重 g	真比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐 植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～20	3.7		28.8	16.1	26.1	29.0	Lic			4.95	0.36	13.9	8.2
2	20～43	4.8		0.2	15.5	37.4	45.0	HC			4.65	0.30	15.3	7.6
3	43～65	4.5		0.4	7.9	46.7	45.0	HC			0.86	0.08	10.4	1.4
4	65～	4.2		0.9	22.7	37.9	38.5	Lic			0.71	0.07	10.3	1.2

層位	P H		置換酸度 Y, 度	塩基置換容量 me/100g	直換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g	30°C Inc NH <sub>3</sub> -N mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.2	4.5	6	28.2	10.6	1.9	0.2	37.6	1,098	24.9	12.11	1.54
2	5.0	4.5	1.3	42.6	27.3	4.2	0.4	64.1	1,366	6.2	1.47	2.24
3	5.6	4.5	1.3	28.3	22.2	3.7	0.5	78.5	1,072	5.0	—	2.05
4	5.9	4.6	1.3	23.1	15.0	6.8	0.4	64.9	928	6.0	—	2.34

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては中野統、大富統があるが中野統は本統より排水状態不良であり、大富統は下層に砂層が存在するので区別される。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地形

新冠川、静内川下流の低平地

C 気候

年平均気温 7.7 °C 年降水量 1,022 mm

D 植生及び利用状況

水田地帯である。

E 農業上の留意事項

施肥の合理化

F 分布

北海道新冠郡新冠町高江、朝日の一部

静内郡静内町神森、目名、田原、中野の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
神 森 - 神 森	II p f

② 土壌区別説明

神 森 統 - 神 森 区



彩度 1 ~ 2。構造は粉状を呈し、膜状斑糸根状斑を含む。ち密度 1.5 前後で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 6 前後。下層との境界は明瞭である。

第 2 層は厚さ 5 cm 前後で腐植を欠く。土性は SL を主とする。色は 10 Y R で明度 4、彩度 2 ~ 3、弱度の細塊状構造で細孔を含む。雲状斑を含む。ち密度 2.0 前後で中。PH (H<sub>2</sub>O) 6 前後。下層との境界は判然である。

第 3 層は厚さ 1.5 cm 前後で腐植を欠く。土性は CL と SL である。色は 10 Y R ~ 2.5 Y で明度 4、彩度 2 ~ 3。弱度の細塊状構造でち密度 2.0 前後で中。PH (H<sub>2</sub>O) 6.5 前後。下層との境界は明瞭である。

第 4 層は厚さ 2.0 cm 前後で腐植を欠き土性は S である。白色の浮石砂を混入している。無構造で単粒状を呈する。ち密度は 1.7 前後で疎。下層との境界は明瞭である。

第 5 層は概ね 5.0 cm 以下で砂と中 ~ 大円礫よりなる砂礫層

代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町若園 試坑 No. n 4 6

第 1 層	0~10cm	腐植含む灰黄褐 (10 Y R 4 / 2) の SL。構造は粉状を呈す。膜状斑糸根状斑含む。ち密度 1.6 で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.8。調査時の湿り湿。境界明瞭
第 2 層	10~15	腐植欠く鈍黄褐 (10 Y R 4 / 3) の SL。弱度の細塊状構造。雲状斑含む。ち密度 2.1 で中。PH (H <sub>2</sub> O) 6.2。調査時の湿り半湿。層界判然。
第 3 層	15~31	腐植欠く灰黄褐 (10 Y R 4 / 2) の SL。弱度の細塊状構造。ち密度 2.1 で中。PH (H <sub>2</sub> O) 6.5。調査時の湿り半湿。層界明瞭。
第 4 層	31~53	白色の浮石砂を混入する砂層。無構造で単粒状を呈する。ち密度 1.7 で疎。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第 5 層	53~	砂と中円礫よりなる砂礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	炭含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地谷 積重 g	現比重	* 全炭素 %	* 全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~10	1.8		22.6	55.7	13.8	7.9	SL			0.91	0.07	12.4	1.5
2	10~15	1.6		15.9	61.1	14.1	8.9	SL			0.69	0.06	11.5	1.2
3	15~31	1.5		18.0	65.0	11.3	5.7	SL			0.56	0.05	12.0	1.0

層位	PH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 me/100g	30℃NH <sub>4</sub> -N 発 生 量 mg/100g	遊離酸化 鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.8	4.3	2.0	10.8	5.5	1.4	2	65.7	50.1	3.0	3.0	1.30
2	6.2	4.7	5	11.0	6.5	2.2	2	80.9	47.5	10.9	10.9	1.37
3	6.5	4.9	5	9.8	7.5	1.0	2	88.8	41.8	9.3	9.3	1.29

(\*は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては静内統があるが砂礫層が本統より浅いので区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地 形

新冠川、静内川等の河川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

ほとんど水田となっている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、施肥の合理化、深耕

F 分 布

北海道新冠郡新冠町のリビラ川、比宇川、厚別川、新冠川の河川流域

静内郡静内町の静内川流域

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
目 名 - 目 名	Itlna

② 土壌区別説明

目 名 統 - 目 名 区



示性分級式

土	表	有	表	耕	灌	暖	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効	土	土	土	土	土	易	透	保	有	有	増	侵	
生	土	土	土	土	土	土	遊	保	固	微	物	地	人	
産	土	土	土	土	土	土	グ	湿	土	量	害	自	耐	
力	の	の	の	の	の	の	ラ	然	置	害	害	傾	耐	
可	の	の	の	の	の	の	地	層	換	害	害	傾	耐	
能	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
厚	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
等	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
級	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
さ	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
量	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
易	の	の	の	の	の	の	地	の	の	害	害	傾	耐	
t	d	g	p		l	r	w	f	n		i	a	s	e
II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	II	II	I	I	I
II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	II	II	I	I	I
II	II	I	I	I	I	I	I	I	I	II	II	I	I	I
間	略	分	級	式										

A 土壤区の特徴

この土壤区は目名統に属する。表土の厚さは15cm前後で浅く、有効土層50～55cmで中庸である。表土の土性は中粒質で耕起、碎土は容易である。灌水透水性大で根系障害のおそれはほとんどない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は高位に属する。養分は苦土が多いが他はどれも中庸もしくは少ない。障害性はないが豪雨時には一時的に冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況

ほとんど水田となつている。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので堆肥、糞等有機物の施用が望ましい。作土が浅いので20～25cm程度まで深耕すること。また加里、磷酸などが不足気味であるから増施することが必要である。健苗育成に努めること。

D 分布

北海道新冠郡新冠町の各河川流域の低平地  
 静内郡静内町の静内川流域の低平地

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

## 中 野 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量13%内外。土性はLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。解凍は粉状を呈する。ち密度1.0以下で極疎。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(U-C混)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量10%内外。土性はCを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度1。中度の細粒状解造と弱度の塊状構造。細孔に富み、小孔を含む。ち密度1.8前後で疎~中。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠く。土性はCを主とする。色は5Yで明度6、彩度1~2。無構造で均質状を呈する。大孔を含み粘土被膜がある。脈状斑を含む。ち密度1.5前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は判然である。

第4層は樹ね4.5cm以下で腐植を欠く。土性はCLを主とする。色は5Yで明度5~6、彩度1。無構造で均質状を呈する。大孔を含み粘土被膜がある。脈状斑に富む。ち密度1.5前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。

#### 代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町中野 試坑No. S11

第1層	0~22cm	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のL。構造は粉状を呈す。ち密度1.0以下で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り湿。層界明瞭
第2層	22~32	腐植頗る富む褐灰(10YR4/1)のHC。中度の細粒状構造と弱度の塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度2.1で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り半湿。層界判然。
第3層	32~47	腐植欠く灰オリーブ(5Y6/2)のLiC。無構造で均質状。大孔含み粘土被膜あり。脈状斑含む。ち密度1.5で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り湿。層界判然。
第4層	47~	腐植欠く灰オリーブ(5Y5/2)のCL。無構造で均質状。大孔含み粘土被膜あり。脈状斑富む。ち密度1.6で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	塊地容積重%	真比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐 植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	4.8		45.1	19.3	22.0	13.9	L			8.18	0.54	15.1	13.4
2	22~32	5.9		5.3	12.9	35.2	46.6	HC			6.53	0.38	17.0	10.6
3	32~47	3.3		4	23.6	36.3	39.7	Lic			0.85	0.08	10.4	1.4
4	47~	2.5		3	53.4	27.2	19.1	CL			0.35	0.04	8.5	0.6

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態燐 mg/100g	30°C inc NH <sub>3</sub> -N mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	4.9	4.4	1.3	28.0	14.2	1.1	0.4	50.7	1,142	37.8	12.25	1.07
2	5.1	4.2	1.3	39.3	14.5	2.8	0.2	36.9	1,490	17.5	7.43	1.03
3	5.4	4.0	2.5	19.6	8.9	4.3	0.2	45.4	688	12.7	-	1.18
4	5.4	4.0	3.8	15.4	6.2	4.9	0.1	40.3	618	9.8	-	1.41

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては神森統があるが断面の排水状態が相違しているので区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩

非固結火成岩 (浮石) / 非固結水成岩

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 水積 (河成)

水積

B 地 形

新冠川、静内川流域河成の低平地

C 気 候

年平均気温 7.7 °C

年降水量 1,022 mm

D 植生及び利用状況

水田となっている。

E 農業上の留意事項

施肥の合理化

F 分 布

北海道新冠郡新冠町高江の一部

静内郡静内町中野御園の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

(1) 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中 野 - 中 野	Ⅱ f n

(2) 土壌区別説明

中 野 統 - 中 野 区

示 性 分 級 式

土表有表耕	灌	酸	土	目	養	障	災	傾	侵			
壤	効	土	土	土	土	有	有	増	自	傾	人	侵
生	土	土	土	土	土	微	酸	物	地	斜	人	耐
産	土	土	土	土	土	効	物	増	地	斜	人	耐
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
厚	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
等	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
級	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
さ	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
量	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
易	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
t	d	g	p	1	r	w	f	n	i	a	s	e
Ⅱ	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
Ⅱ	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
Ⅱ	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
簡略分級式			Ⅱ f n			Ⅱ t w f n						

A 土壌区の特徴

この土壌区は中野統に属する。表土の厚さは20cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起・碎土は容易である。灌水透水性は小～中で根系障害のおそれはほとんどない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態中庸で肥沃度は中位である。養肥分は苦土中庸で他はどれも多めである。障害性災害性は特でない。

B 植生及び利用状況

ほとんど水田となつている。

C 地力保全上の問題点

養肥分がわりと多いが、苦土が不足気味であるので苦土入り肥料、例えば熔燐などを使用する必要がある。また健苗育成に努めること。硅カルを施用すること。

D 分 布

北海道新冠郡新冠町高江の一部

静内郡静内町中野、御園の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

東 別 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量15~20%、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1、構造は粒質状を呈する。膜状糸根状斑を含む。ち密度1.3前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.0前後。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量15~20%、土性はLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1、弱度の細塊状構造。膜状斑を含む。ち密度1.5前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5~5.5。下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量10%前後。泥炭を含み土性はCを主とする。色は2.5Yで明度3、彩度1~2。無構造で均質状を呈する。雲状斑を含む。ち密度1.0以下で極疎。PH(H<sub>2</sub>O)4.5前後。下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ25cm前後で腐植を欠き、泥炭に富む。土性はCを主とする。色は5Yで明度5、彩度1~2。無構造で均質状を呈する。雲状斑を含む。ち密度1.0以下で極疎。PH(H<sub>2</sub>O)4.5前後。下層との境界は明瞭である。

第5層は総ね65cm以下でヨシを主材とする低位泥炭。色は7.5YR明度4、彩度2~3。分解度H4でやや良

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町浦和 試坑No. S84

第1層	0~16cm	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL。構造は粒質状。膜状糸根状斑含む。ち密度1.3で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り湿。層界明瞭。
第2層	16~31	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL。弱度の細塊状構造。細孔富み。膜状糸根状斑含む。ち密度1.6で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.3。調査時の湿り湿。層界明瞭
第3層	31~42	腐植富み泥炭含む黒褐(2.5Y3/1)のHC。無構造で均質状。雲状斑含む。ち密度.9で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.6。調査時の湿り潤。層界明瞭
第4層	42~65	腐植欠き泥炭富む灰オリーブ(5Y5/2)のHC。無構造で均質状。雲状斑含む。ち密度1.0で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.5。調査時の湿り潤。層界明瞭
第5層	65~	灰褐(7.5Y4/2)のヨシを主とする低位泥炭。H4で分解やや良。

代表断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	塊地容積重 g	其比重	全炭素	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	5.4		26.1	23.1	26.2	24.6	CL			11.84	0.68	17.4	19.3
2	16~31	6.4									11.96	0.68	17.6	19.3
3	31~42	8.0		0.6	9.2	27.9	62.3	HC			8.16	0.35	23.6	13.0
4	42~65	6.5		0.0	6.3	36.2	57.5	HC						

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g	30°C 的 NH <sub>3</sub> -N mg/100g	遊離酸化 度
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.0	4.2	2.5	42.1	14.2	2.3	0.2	33.7	1.884	1.10	14.79	2.74
2	5.3	4.2	1.3	48.9	12.0	4.9	0.2	24.5	2.160	15.2	12.46	2.63
3	4.6	3.7	33.8	60.3	10.7	6.9	0.4	17.7	1.848	10.4	—	—
4	4.5	3.6	31.3	34.2	9.6	8.0	0.5	28.1	1.018	7.7	—	1.12

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては東川統があるが土層内に泥炭が出現しないので区別される。

A-3 母 材

非固縮水成岩ノヨン

A-4 堆積様式

水積(河成)ノ集積(低位泥炭)

B 地 形

小河川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 7.7 °C 年降水量 1,022 mm

D 植生及び利用状況

水田となっている。

E 農業上の留意事項

施肥の合理化、深耕、排水完備

F 分 布

北海道新冠郡新冠町高江の一部

静内郡静内町浦和、川谷、東別の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日



記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

大 富 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量5%内外、土性はCLを主とする。色は2.5Yで明度3~4、彩度1。構造は粒質状を呈する。膜状斑を含む。ち密度1.3前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5~5.5。下層との境界は判然である。(U-C混)

第2層は厚さ25cm前後で腐植を欠き土性はCを主とする。色は1.0YRで明度4、彩度1~2、中~強度の細塊状構造で細孔に富み小孔を含む。点状斑を含む。ち密度1.8前後疎。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は1.0YRで明度4、彩度2~3、中度の細塊状構造と弱度の塊状構造で細孔富み小孔含む。ち密度2.0で中。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ5cm前後で腐植を欠き土性はSを主とする。色は2.5Yで明度4、彩度1~2。無構造で単粒状。ち密度は疎。下層と境界は判然である。

第5層は厚さ15cm前後で腐植を欠き土性はCを主とする。色は2.5Yで明度4、彩度2~3。弱度の塊状構造で細孔富み小孔含む。雲状斑含む。ち密度は疎。下層との境界は判然である。

第6層は概ね75cm以下で腐植を欠き土性はSを主とする。色は2.5Yで明度4、彩度1~2。無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町田原 試坑No. S21

第1層	0~13cm	腐植含む黄灰(2.5Y4/1)のSiCL。構造は粒質状。膜状斑含む。ち密度1.3で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.3。調査時の湿り半湿。層界判然。
第2層	13~38	腐植欠く灰黄褐(1.0YR4/2)のSiC。中~強度の細塊状構造。細孔富み小孔含む点状斑含む。ち密度1.8で疎。PH(H <sub>2</sub> O)6.1。調査時の湿り半湿。層界判然。
第3層	38~53	腐植欠く鈍黄褐(1.0YR4/3)のCL。中度の細塊状構造と弱度の塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度2.0で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半湿。層界判然。
第4層	53~60	腐植欠く暗灰黄(2.5Y4/2)のS。無構造で単粒状。ち密度は疎。調査時の湿り半湿。層界判然。
第5層	60~73	腐植欠く暗灰黄(2.5Y4/2)のC(触感)。弱度の塊状構造。雲状斑含む。ち密度は疎。調査時の湿り半湿。層界判然。
第6層	73~	腐植欠く暗灰黄(2.5Y4/2)のS。無構造で単粒状。ち密度は疎。調査時の湿り半湿。



代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13			9.7	21.7	45.1	23.5	SiCL			2.47	0.17	14.2	4.1
2	13~38			0.3	21.5	47.8	30.4	SiC			1.48	0.11	13.1	2.5
3	38~53			0.1	34.8	43.6	21.5	CL			0.96	0.06	15.7	1.6

層位	P H		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸 収係数	有効態 燐 酸 mg/100g	30°Cinc NH <sub>3</sub> -N mg/100g	遊離酸 化鉄%
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.3	4.4	2.5	14.6	7.3	1.9	0.4	50.0	57.2	44.5	8.60	1.59
2	6.1	5.2	0.6	13.9	12.8	2.7	0.3	92.1	69.6	27.4	4.32	1.38
3	5.8	5.0	1.3	13.8	8.8	1.8	0.3	63.8	57.2	25.9	—	2.19

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては神森統、中野統、目名統、静内統などがあるが神森統と中野統は本統より表土の腐植含量多く、かつ土層に砂層が出現しない。また目名統、静内統は砂礫層が出現し、かつその位置が浅いので区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地 形

新冠川、静内川下流の低平地

C 気 候

年平均気温 7.7 °C 年降水量 1,022 mm

D 植生及び利用状況

ほとんど水田となっている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用

F 分 布

北海道新冠郡新冠町朝日、大富、明和の一部

静内郡静内町目名、田原、豊畑の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
大富 - 大富	II t p f

② 土壤区別説明

大富統 - 大富区
-----------

示性分級式

土表有表耕 壤効土 産土の 力の層 可能厚 性 等 級	表土の風の乾透の粘土の水性	作土下50cmの最も高土密性	易遊離酸性	グシラ地	透保湿	自然	養層分換の性	直層分換の性	障有微礙物	災有物増地冠す	傾自傾人斜為	侵耐耐水風
t d g p	l	r	w	f	n	i	a	s	e			
<b>I</b>	II I I II 2 3 2	I 2 2 I 1 1 1		II 2 1 2 I 1 1 1 1 1 2	I 1 1 I 1 1							
<b>III</b>	III I I II 2 3 2		I 1 2 1 II 2 1 2 I 1 1 1 1 1 2	I 1 1 I 1 1 1 1 1 2	I 1 1 I 1 1 1 1 1 1 1 1							
簡略分級式	III II t p f		III II t p f									

A 土壤区の特徴

この土壤区は大富統に属する。表土の厚さは15cm前後で浅く、有効土層1m以上で深い。表土の土性細粒質で耕耘・碎土はやや困難である。湛水透水性小～中で根系障害のおそれはほとんどない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態中で肥沃度は中位である。  
養肥分はどれも多いほうである。障害性・災害性は特にない。

B 植生及び利用状況

ほとんど水田となつている。

C 地力保全上の問題点

腐植が少なめでかつ作土がやや浅いので堆肥など有機物を施用しながら深耕すること(20～25cmまで)。また硅カルを使用することが望ましい。

D 分布

北海道新冠郡新冠町 朝日、大富、明和の一部  
静内郡静内町 目名、出原、豊畑の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和46年3月31日

# 東 川 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3~4%。土性はLを主とする。色は2.5Yで明度3~4、彩度1~2。構造は粒質状を呈する。膜状斑糸根状斑を含む。ち密度は疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は明瞭である。(U-C混)

第2層は厚さ25cm前後で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3。弱度の塊状構造で細孔に富み小孔を含む。ち密度は疎。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ25cm前後で腐植を欠き土性はCLを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度2~3。弱度の塊状構造で細小孔を含む。点状斑グライ斑含む。ち密度は疎。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き土性はSである。色は2.5Yで明度5~6、彩度1~2。無構造で単粒状を呈し雲状斑を含む。下層との境界漸変である。

第5層は概ね85cm以下で腐植を欠く砂層である。

### 代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町共栄 試坑No. n 57

第1層	0~18cm	腐植含む黄灰(2.5Y4/1)のL。構造は粒質状。膜状斑糸根状斑含む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.5。調査時の湿り湿。層界明瞭
第2層	18~43	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/3)のCL。弱度の塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)6.0。調査時の湿り湿。層界漸変
第3層	43~71	腐植欠く鈍黄橙(10YR6/3)のCL。中~弱度の塊状構造。細小孔含む。点状斑グライ斑含む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.9。調査時の湿り湿。層界漸変。
第4層	71~85	腐植欠く灰黄(2.5Y6/2)のS。無構造で単粒状。点状斑含む。ち密度疎。調査時の湿り湿。層界漸変
第5層	85~	腐植欠く砂層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	含水量重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全灰素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.3		33.2	30.8	22.3	13.7	L			2.22	0.16	13.9	8.8
2	18~43	2.9		0.6	50.9	28.6	19.9	CL			1.30	0.10	13.0	2.2
3	43~71	2.7		0.3	47.3	30.7	21.7	CL			1.02	0.19	5.4	1.8

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g	30°C 30 <sup>g</sup> inc NH <sub>3</sub> -N mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.5	4.2	3.5	15.0	10.2	0.6	0.6	76.0	688	4.7	5.73	0.96
2	6.0	4.5	0.8	14.8	7.4	2.2	0.4	67.6	820	1.0	1.4	1.48
3	5.9	4.3	2.0	18.8	9.8	2.1	0.3	64.9	691	1.2		1.48

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては大富統があるが断面の排水状況に差があるので区別される。

A-3 母 材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地 形

各河川流域の低平地

C 気 候

年平均気温 7.7 °C 年降水量 1,022 mm

D 植生及び利用状況

水田となっている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、施肥の合理化

F 分 布

北海道新冠郡新冠町 共栄、比字の一部

静内郡静内町 川台、東別、西川の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日



# 静 内 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10cm前後で腐植含量2%内外、未風化の小～中円礫に富む。土性はCLを主とする。色は2.5Yで明度4～5、彩度3。構造は粉状を呈する。膜状斑に頗る富む。ち密度は疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は明瞭である。(客入土)

第2層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外、未風化の中円礫を含む～富む。土性はCLを主とする。色は7.5YR～10YRで明度3～4、彩度1。板状構造を呈し、構造間に斑鉄がある。ち密度2.0前後で中。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は明瞭である。

第3層は概ね30cm以下で粗砂と未風化の中～大円礫よりなる砂礫層である。

### 代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町豊畑 試坑No. S16

第1層	0～10cm	腐植含むオリーブ褐(2.5Y4/3)のLiC。未風化小中円礫富む。構造は粉状。膜状斑頗る富む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り湿。境界明瞭
第2層	10～35	腐植含む黒褐(10YR3/1)のSL。未風化小中円礫含む。板状構造。膜状斑点状斑頗る富む。ち密度2.1～2.3で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.8。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第3層	35～	粗砂と未風化中大円礫よりなる砂礫層

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重g	真比重	* 全炭素 %	* 全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～10			4.3	40.9	28.6	26.2	LiC			1.17	0.08	14.3	2.0
2	10～35			0.6	67.6	20.8	11.0	SL			2.12	0.12	17.3	3.6

層位	PH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態 磷 酸 mg/100g	30°C NH <sub>4</sub> - N 発生量 mg/100g	遊離酸 化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.7	4.9	1.3	16.5	10.5	5.1	0.6	63.6	544	2.16	2.88	1.19
2	5.8	5.2	1.3	13.3	11.0	2.9	0.4	82.7	526	2.17	2.14	1.12

( \* は乾土当り )

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては目名統があるが有効土層が本統より深いので区別される。

A-3 母材

非固結水成岩

A-4 堆積様式

水積（河成）

B 地形

静内川、新冠川、厚別川等の河川流域の低平地

C 気候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

ほとんど水田となっている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、除石

F 分布

北海道新冠郡新冠町共栄、大狩部、朝日の一部

静内郡静内町御園、豊畑の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
静 内 - 静 内	II d g p l f i a

② 土壌区別説明

静 内 統 - 静 内 区

示性分級式

土表有表耕	湛	暇	土	目	養	障	災	傾	侵																												
環	表	表	作	易	遊	透	保	濕	保	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	傾	人	侵	耐														
生	効	土	土	土	土	分	離	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風														
産	土	の	の	風	50cm	性	緩																														
力	の	の	乾	透	の	遠	有	化	イ	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苔	加	燐	害	質	害	の												
可	の	際	粘	土	最	高	械	鉄																													
能	厚	含	難	土	着	水	土	元	物	化	乾	沃	状	呈	含	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"												
性	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
等	級	さ	さ	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
級	さ	さ	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性												
	t	d	g	p		l		r		w		f		n								i	a	s	e												
Ⅱ	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	2	Ⅱ	3	2	I	1	2	1							Ⅱ	2	1	Ⅱ	2	1										
Ⅲ	I	Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	3	2	2					I	1	1	(2)	Ⅱ	2	1	1	I	1	1	1	1	1	2	Ⅱ	1	2	Ⅱ	2	1	I	1	1	1	1
商	略	分	級	式		Ⅱ	d	g	p	l	f	i	a	s	e																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は静内統に属する。表土の厚さは35cm前後で深く、有効土層35cm前後で中である。表土の土性微粒質で耕起・碎土はやや困難でかつ礫が多いので農具の使用に抵抗を感じる。湛水透水性大で根系障害のおそれはほとんどない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は中位である。養分はいずれも多い。除去やや困難な物理的障害があり、旧河原であるため一時的に冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況

ほとんど水田となっている。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので堆厩肥などの有機物を施用すること。礫が多いので極力除石し、かつ漸次耕深を20~25cmにするよう深耕すること。

D 分布

北海道新冠郡新冠町共栄、大狩部、朝日の一部

静内郡静内町御園、豊畑の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日



真 歌 流

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量7%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1~2、弱度の細粒状構造でち密度は疎である、PH(H<sub>2</sub>O) 4.5~5.5。下層との境界は判然である。(Ta-b, U-c)

第2層は厚さ15~20cmで腐植含量15%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1、弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O) 4.5前後。下層との境界は判然である。(Ta-c?)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量6%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~3、弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O) 4.5前後。下層との境界は漸変である。(S10)

第4層は厚さ10cm前後で腐植含量3%内外、小浮石礫を含む。土性はLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3、弱度の塊状構造で細孔を含む。ち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5。下層との境界は漸変である。(S10)

第5層は概ね60cm以下で10YRで明度7、彩度6~8の浮石砂礫層(Spfa)

代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町西泊津 試坑No. n14

第1層	0~20cm	腐植富む黒(10YR2/1)のL、弱度の細粒状構造。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O) 4.7。調査時の湿り半乾。層界判然
第2層	20~38	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のL、弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O) 4.6。調査時の湿り半湿。層界判然
第3層	38~52	腐植富む黒褐(10YR3/1)のL、弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O) 4.5。調査時の湿り半湿。層界漸変
第4層	52~62	腐植含む灰黄褐(10YR4/2)のSL、浮石小礫含む。弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.4。調査時の湿り半乾。層界漸変
第5層	62~	黄橙(10YR7/8)の浮石砂礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	坹地谷積重%	具比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	9.4		32.8	25.9	35.3	6.0	L			4.12	0.21	19.6	7.1
2	20~38	18.0		15.5	33.7	44.0	6.8	L						
3	38~52	14.3		18.0	47.0	33.9	1.1	L		3.01	0.14	21.5	5.2	
4	52~62	13.0		23.9	48.2	26.1	1.8	SL		1.73	0.10	17.3	3.0	

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.7	3.7	6.3	41.1	7.7	1.0	0.2	18.7	2,279	9.1
2	4.6	3.7	10.0	58.0	3.2	0.4	0.2	5.5	2,801	tr
3	4.5	3.8	3.8	24.7	1.6	0.1	0.1	6.5	2,635	tr
4	5.4	4.5	4.5	12.9	1.5	0.1	0.1	11.6	2,360	8.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としてはリビラ統、川合統、西川統、節婦統などがあるが、いずれも Spfa 層が存在しないので区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山浮石砂礫）

A-4 堆積様式

風積（火山性）

B 地 形

標高100~200mの台地頂部

C 気 候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、放牧地として利用されている。

E 農業上の留意事項

酸性矯正、施肥の合理化、侵蝕防止

F 分 布

北海道新冠郡新冠町西泊津、東泊津の一部

静内郡静内町真歌の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日



## 御 園 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量7%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1~2。弱度の細粒状構造でち密度13前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5~5.5。下層との境界は明瞭である。(Ta-b、U-c混)

第2層は厚さ5~10cmで浮石砂層、色は10YRで明度7~8、彩度2~4。ち密度15前後で疎である。下層との境界は明瞭である。(U-c)

第3層は厚さ25cm前後で腐植含量15%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の塊状構造で細孔に頗る富む。ち密度15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5~5.5。下層との境界は判然である。(Ta-c?)

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量13%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度1~2、彩度1。弱度の塊状構造で細孔に頗る富む。ち密度15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は判然である。(s10?)

第5層は厚さ15cm前後で腐植含量5%内外、土性はLを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度2。弱度の塊状構造で細孔に頗る富む。ち密度18前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は判然である。(s10?)

第6層は概ね80cm以下で腐植を欠く。土性はLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度4~6。中~強度の塊状(ボール状)構造で細孔あり。ち密度20前後で中。PH(H<sub>2</sub>O)5前後(s10)

#### 代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町御園 試坑No. S68

第1層	0~22cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のSL。弱度の細粒状構造。ち密度13で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.3。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第2層	22~28	浅黄(10YR7/4)のS(浮石砂)。ち密度15で疎。調査時の湿り乾。層界明瞭
第3層	28~53	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のs1L。弱度の塊状構造。細孔頗る富む。ち密度14で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り半湿。層界判然
第4層	53~66	腐植頗る富む黒(10YR2/1)のL。弱度の塊状構造。細孔頗る富む。ち密度15で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り半湿。層界判然
第5層	66~79	腐植含む~富む黒褐(10YR3/2)のL。弱度の塊状構造。細孔頗る富む。ち密度18で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り半乾。層界判然
第6層	79~	腐植欠く褐(10YR4/6)のSL。中程度の塊状構造(ボール状)。ち密度23で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り半乾

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	疎含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22			56.2	23.3	15.1	5.4	SL			4.47	0.30	15.1	7.5
2	28~53			9.7	31.4	49.0	9.9	siL			9.23	0.54	17.1	14.4
3	53~66			11.9	40.4	43.2	4.5	L			8.28	0.38	17.3	12.8
4	66~79			11.3	50.6	34.9	3.2	L			4.49	0.25	17.7	7.3
5	79~			18.8	52.6	28.3	0.3	SL			3.57	0.18	19.5	5.7

層位	P H		直換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KcL			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.6	3.8	18.4	7.5	1.5	0.1	40.8	938	0.1
2	5.2	4.3	3.8	62.7	5.7	3.1	0.1	0.91	2,470	0.6
3	5.1	4.3	1.3	46.6	1.8	1.6	0.1	0.39	2,478	0.4
4	5.2	4.5	1.3	25.3	0.9	1.5	0.4	0.36	2,244	0.9
5	5.2	4.5	0.6	24.7	0.9	1.1	0.2	0.36	2,286	0.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては真歌統、リピラ統、川合統、西川統などがあるが真歌統は断面にSpが出現し、他の統はいずれも下層に円礫が存在するので区別される。

A-3 母材

非固結火成岩（火山浮石砂）

A-4 堆積様式

風積（火山性）

B 地形

静内川西岸に分布する標高30~60mの段丘

C 気候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、放牧地

E 農業上の留意事項

酸性矯正、施肥の合理化

F 分布

北海道静内郡静内町御園の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
御 園 - 御 園	II f n i

② 土壌区別説明

御 園 統 - 御 園 区
---------------

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 効 土 層 の 厚 さ	表 土 耘 土 の 粘 土 含 量	表 土 の 乾 硬 性	透 水 性	保 水 性	保 固 力	土 質 状 態	養 分 含 量	固 定 力	塩 基 性	石 灰 土 層	加 里 要 素	障 害 物 的 障 害	災 害 冠 水	傾 斜 度	自 然 傾 斜	人 為 傾 斜	侵 蝕 耐 力	風 蝕 方 向	風 蝕 性	
II	I I I I I	I 1 1 (2)	I	1 2 1	II	2 2 2	II	1 1 3	3 1 2	II	1 2 I	I 1 1	I	1 1 I	1	--	I	1 1 1			
簡略分級式	II f n i																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は御園統に属する。表土の厚さは65cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性良、保水性大で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定力小、塩基状態中で肥沃度は中位である。

養肥分は加里、磷酸に乏しい。強酸性を呈する。次層の浮石層の存在が障害となつている。傾斜3度以下で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

概ね採草地、放牧地である。

C 地力保全上の問題点

酸性を呈しているので炭カルを10aあたり500kg前後散布する必要がある。  
 磷酸、加里が不足しているので増施すること。

D 分 布

北海道静内郡静内町御園の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

# リビラ統

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外。土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1。弱度の細粒状構造。ち密度は1.5前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(U-C混)

第2層は厚さ5cm前後で腐植含量10%内外。土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の塊～細塊状構造で細孔に頗る富み小孔を含む。ち密度1.5前後で疎である。下層との境界は判然である。(Ta-C)

第3層は厚さ25cm前後で腐植含量5%内外。土性はCLを主とする。色は7.5YRで明度3、彩度1～2。中度の細塊状構造と弱度の塊状構造で細孔に頗る富み小孔に富む。ち密度1.5前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5、彩度3～4。弱度の塊状構造で細孔に頗る富み、小孔に富む。ち密度1.8前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は判然である。

第5層は概ね70～75cm以下で腐植を欠き、小～中円礫を含む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度6。弱度の塊状構造で細孔に富み、小中孔を含む。ち密度1.8前後で疎である。(s10?)

### 代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町里平 試坑No. n36

第1層	0～22cm	腐植富む黒褐(10YR2/2)のLS。弱度の細粒状構造。ち密度1.5で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第2層	22～27	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL。弱度の細塊～塊状構造。細孔頗る富み小孔含む。ち密度1.6で疎。調査時の湿り半湿。層界判然
第3層	27～52	腐植富む黒褐(7.5YR3/2)のCL。中度の細塊状構造と弱度の塊状構造。細孔頗る富み、小孔富む。ち密度1.5で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り半湿。層界判然
第4層	52～73	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/4)のCL。弱度の塊状構造。細孔頗る富み小孔富み中孔含む。ち密度1.8で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.2。調査時の湿り半湿。層界判然
第5層	73～	腐植欠く黄褐(10YR5/6)の小～中円礫含むCL。弱度の塊状構造。細孔富み小中孔含む。ち密度1.7で疎。調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	2.2		72.2	13.2	10.6	4.0	LS			1.63	0.09	18.1	2.8
2	22~52	9.9		9.3	28.1	38.9	23.7	CL			3.51	0.28	12.5	6.0
3	52~73	8.8		5.3	40.0	37.8	16.9	CL			1.20	0.10	12.0	2.1

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	Kc1			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	4.1	1.9	9.3	3.5	0.4	0.2	37.0	1,073	9.3
2	4.9	3.9	3.8	29.0	10.2	0.7	0.6	35.2	841	5.4
3	5.2	3.9	3.8	22.2	9.6	1.8	0.4	43.2	2,128	3.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては真歌統、御園統、川合統、西川統などがあるが、真歌統はsp層があり、御園統は下層に円礫がなく、他の統にe10層(?)が出現しないので区別される。

A-3 母材

非固結火成岩(火山浮石砂)

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 水積(二次)?

B 地形

標高50~150mの段丘

C 気候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

概ね採草地、放牧地で一部に畑地(豆類)がある。

E 農業上の留意事項

酸性矯正、施肥の合理化、侵蝕防止

F 分布

北海道新冠郡新冠町、里平、太陽、明和、西泊津、東泊津の大部分

静内郡静内町、真歌の大部分、豊畑、西川の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日



(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
リビラーリビラ	II f n s e

② 土壤区別説明

リビラ統ーリビラ区

示性分級式 (畑)

土壌	(耕) 表土	(表) 表土	(表) 表土	(透) 透土	(保) 保土	(自) 自土	(養) 養土	(置) 置土	(有) 有土	(酸) 酸土	(障) 障土	(災) 災土	(傾) 傾土	(自) 自土	(傾) 傾土	(侵) 侵土	(耐) 耐土	(耐) 耐土		
生土	効土	土	土	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風		
産力	の層	のの	のの	の乾	の水	水潤	肥肥	定塩	の石	苦加	燐	害質	害の	のの	のの	の	蝕			
可能	の燥	粘	土	の乾	沃	状	豊	含	灰	土	酸	要	の障	危	傾	傾	蝕	蝕		
性厚	深	含	難	着	硬	性	性	度	力	力	態	量	"	"	柔	度	無	性	度	
等	量	易	湿	湿	度	度	否	否	性	性	性	性	斜	斜	斜	蝕	蝕	性	性	
級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級	級
	t	d	g	p	w	f	n				i	a	s	e						
II	I	I	I	I	I	I	I	(2)	I	I	I	I	II	2	2	2	2	2	2	2
簡略分級式	II f n s e																			

A 土壤区の特徴

この土壤区はリビラ統に属する。表土の厚さは40~50cmで深く有効土層1m以上で深い。表土の土性やや粗粒質で耕起・碎土は容易である。透水性やや良、保水性大で過湿、過乾のおそれは少ない(局地的に斜面上部からの滲透水の影響で湿性を呈するところがある)。保肥力中、固定力小、塩基状態で肥沃度は中位である。養肥分は燐酸を除いてはどれも少ないようである。酸性もやや強い。5度前後の傾斜地で侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

採草地、放牧地となつていて一部に畑地(主として豆類)がある。

C 地力保全上の問題点

酸性が強いのので炭カルを10aあたり400kg前後散布すること。深耕する場合は更に増量を要する。加里、苦土等に乏しいのでこれらの肥料を増施すべきである。

草地の肥培管理に留意し土壤保全につとめること。

D 分布

北海道新冠郡新冠町里平、太陽、明和、東泊津、西泊津の大部分  
 静内郡静内町真歌の大部分、豊畑、西川の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

川 合 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量10%内外。土性はSLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1~2。弱度の細粒状構造。ち密度15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は明瞭である。(Ta-b, U-c混)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量15%内外。土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の細塊状構造で細孔に頗る富む。ち密度15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(Ta-c)

第3層は厚さ20cm前後で腐植含量7%内外。小~中円礫に富む。土性はCLを主とする。弱度の細塊状構造で細孔に富み小孔を含む。ち密度は15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね45cm以下で小~中円礫よりなる礫層で礫間に鈍黄褐(10YR5/3)の土性CL(触感)を充填する。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町 試坑No. S72

第1層	0~15cm	腐植頗る富む黒(10YR2/1)のSL。弱度の細粒~細塊状構造。ち密度13で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第2層	15~25	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のLic。弱度の細塊状構造。細孔頗る富む。ち密度15で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.8。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第3層	25~45	腐植富む黒褐(10YR3/1)のCL。小~中円礫富む。弱度の細塊状構造。細孔富み小孔含む。ち密度15で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第4層	45~	小~中円礫よりなる礫層。礫間に鈍黄褐(10YR5/3)のCLを充填する。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐植
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15			48.8	24.9	17.8	8.5	SL			5.13	0.36	14.1	8.5
2	15~25			18.5	27.9	24.8	28.8	Lic			9.65	0.64	15.1	15.4
3	25~45			28.7	29.6	22.9	18.8	CL			5.21	0.31	16.9	8.4

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.7	2.5	30.2	10.6	2.3	0.7	35.1	1,296	0.3
2	4.8	4.0	10.0	85.4	16.4	4.3	0.2	19.2	2,330	0.3
3	5.1	4.1	8.8	31.5	2.6	1.9	0.1	8.3	2,070	0.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては西川統、節婦統などがあるが西川統は下層の礫含量少なく節婦統は腐植層が深くかつ礫含量も少ないので区別される。

A-3 母材

非固結火成岩/固結水成岩等

A-4 堆積様式

風積(火山性)/洪積

B 地形

標高40~160mの段丘

C 気候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、放牧地で一部に畑もある。

E 農業上の留意事項

施肥の合理化、深耕、酸性矯正、侵蝕防止

F 分布

北海道静内郡静内町駒場、神森、西川、川合、東静内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
川 合 - 川 合	III d II f n s e

② 土壌区別説明

川合統 - 川合区

示性分級式 (畑)

土	表	表	耕	(土)	(白)	(養)	(置)	(障)	(災)	(傾)	(侵)	(耐)
壤	効	土	耘	土	地	然	層	換	微	酸	有	物
生	土	土	土	の			の	性	態	量	害	理
産	土	の	の	風			の	性	態	量	物	的
力	層	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦
可	の	磔	粘	土	乾	沃	状	壟	含		基	灰
能	厚	深	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	壟	含
性	厚	深	含	難	土	着	硬	乾	沃	状	壟	含
等	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	否	否	素	度	無
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e
III I III I I I 1 1 (2) I 1 2 1 II 1 2 2 II 1 1 1 3 1 2 I 1 1 I 1 1 II 2 -- II 2 2 2												
簡略分級式 III d II f n s e												

A 土壌区の特徴

この土壌区は川合統に属する。表土の深さは40~50cmで深く、有効土層40~50cmでやや浅い。表土の土性は中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性良く保水性大で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態で肥沃度は中位である。養肥分は燐酸少なく他は多めである。除去やや困難な障害がある。5~8度の傾斜で土壌侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

採草地、放牧地で一部に畑がある。

C 地力保全上の問題点

一般に作土が浅いので深耕すること。ただし次層が強酸性を呈しているので炭カルを10aあたり1,000Kgを数回に分けて散布し充分混和することが望ましい。また燐酸が不足しているので増施し、半量は熔燐を用いるとよい。土壌保全に充分留意すること。

D 分 布

北海道静内郡静内町駒場、神森、西川、川合、東静内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

西 川 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量10%内外。土性はLを主とする。色は10YRで明度2、彩度1~2。弱度の細粒~細塊状構造でち密度1.9前後で中である。PH(H<sub>2</sub>O)4.5前後。下層との境界は明瞭である。(Tab. U-c混)

第2層は厚さ10cm前後で腐植3%内外。土性はCLを主とする。色は10YRで明度3、彩度3~4。弱度の細塊~塊状構造で細孔に富みち密度1.9前後で中である。PH(H<sub>2</sub>O)4.5~5前後。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5~6、採度6。弱~中度の細塊状構造で細孔に富みち密度2.0前後で中である。PH(H<sub>2</sub>O)4.5前後。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠き小円~半角礫を含む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度4。中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度2.3前後で中である。下層との境界は判然である。

第5層は概ね65cm以下で腐植を欠き小円~半角礫に富む。弱度の塊状構造で細小孔を含む。ち密度は中である。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町西川 試坑No. S42

第1層	0~16cm	腐植頗る富む黒(10YR2/1)のCL。弱度の細粒状構造。ち密度1.9で中。PH(H <sub>2</sub> O)4.7。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第2層	16~26	腐植含む暗褐(10YR3/3)のLiC。弱度の塊~細塊状構造で細孔富む。ち密度1.9で中。PH(H <sub>2</sub> O)4.8。調査時の湿り半湿。層界判然
第3層	26~46	腐植欠く明黄褐(10YR6/6)LiC。弱~中度の細塊状構造で細孔富む。ち密度2.1で中。PH(H <sub>2</sub> O)4.7。調査時の湿り半湿。層界判然
第4層	46~65	腐植欠く鈍黄橙(10YR6/4)のCL。小円~半角礫含む。中度の細塊状構造細孔富む。ち密度2.2~2.3で中。調査時の湿り半湿。層界判然
第5層	65~	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/4)のCL。小円~半角礫富む。弱度の塊状構造。細小孔含む。ち密度は中。調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	際含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16			30.5	27.3	25.5	16.6	CL			4.40	0.23	15.1	7.3
2	16~26			6.3	31.8	31.5	30.5	LiC			2.60	0.16	16.5	4.3
3	26~46			5.4	32.1	30.2	32.2	LiC			1.69	0.12	14.6	2.8

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効遊離磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.7	4.1	3.8	25.4	7.9	1.3	0.5	3.11	8.22	0.4
2	4.8	4.0	13.8	20.7	3.9	0.2	0.7	18.8	1,180	0.3
3	4.7	4.0	13.8	17.6	2.9	0.8	0.6	16.5	1,206	4.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては川合統、節婦統があるが、川合統は下層礫層が出現し、節婦統は本統より腐植含有層が深いので区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩/固結水成岩(砂岩、頁岩)

A-4 堆積様式

風積(火山性)/洪積

B 地 形

標高100~200mの段丘

C 気 候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

概ね採草地、放牧地である。

E 農業上の留意事項

深耕、施肥の合理化、酸性矯正、侵蝕防止

F 分 布

北海道新冠郡新冠町明和の一部

静内郡静内町豊畑、西川の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
西 川 - 西 川	III s II t f n e

② 土壤区別説明

西 川 統 - 西 川 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	有 効	表 土	表 土	透 透	保 湿	目 然	保 固	土 置	養 分	有 効	酸 性	障 害	物 害	増 地	傾 斜	目 傾	人 侵	耐 耐										
産 力 可 能 性 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級	の 層 的 厚 深 等 級									
t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																			
III	II	I	I	I	I	I	(2)	I	I	I	II	I	I	I	3	1	3	I	I	I	I	III	3	-	-	II	2	2	2
簡略分級式		III s II t f n e																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は西川統に属する。表土の厚さ15~20cmで中庸で有効土層1m以上で深い。表土の土性中~細粒質で耕起・碎土は容易である。透水性良く、保水性大で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力大。固定力小。塩基状態中で肥沃度は中位である。養分は燐酸少なく他は多い。全層強酸性を呈する。10度前後の傾斜地で侵蝕のおそれが多い。

B 植生及び利用状況

採草地、放牧地で一部畑(麦類、豆類)である。(えん麦に苦土欠乏症顕著)

C 地力保全上の問題点

作土が浅いので深耕すること。全層強酸性を呈しているから炭カル(700~800kg/10a)を散布して矯正すること。燐酸が欠乏しているから増施し、半量は熔燐を用いることが望ましい。傾斜地であるから土壤保全につとめ、草地の肥培管理に充分心がけること。

D 分 布

北海道新冠郡新冠町明和の一部  
 静内郡静内町豊畑、西川の一部  
 記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
 日 付 昭和46年3月31日

## 節 婦 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量10%内外。土性はSLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の細粒状構造でち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(Ta-b, U-c)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量20%内外。土性はCLを主とする。色はNで明度1、彩度1。弱度の塊状構造で細孔を含みち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(Ta-c?)

第3層は厚さ25cm前後で腐植含量10%内外。まれに半風化大円礫が存在する。土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度は疎である。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外。まれに半風化中～大円礫が存在する。土性はCLを主とする。色は10YRで明度3～4、彩度3～4。弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は半然である。

第5層は概ね75cm以下で腐植を欠き半風化小～大円礫を含む～富む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度5～6、彩度6。弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度は疎である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町東泊津 試坑No. n 1 1

第1層	0～23cm	腐植頗る富む(触感)黒(10YR1/1)のSL。弱度の細粒状構造。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第2層	23～36	腐植頗る富む黒(N1/1)のCL。弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.2(第3層合)。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第3層	36～63	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のCL。弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度疎。調査時の湿り半湿。層界判然
第4層	63～76	腐植含む暗褐(10YR3/3.5)のCL。弱度の塊状構造。細孔富む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.4(第5層合)。調査時の湿り半乾。層界判然
第5層	76～	腐植欠く明黄褐(10YR6/6)のCL。半風化中～大円礫富む。弱度の塊状構造。ち密度疎。調査時の湿り半乾



代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	5.2		50.4	18.9	23.5	7.2	SL			3.25	0.17	19.1	5.6
2	23~63	13.8								11.10	0.65	17.2	20.1	
3	63~	11.3		17.6	50.0	26.0	6.4	SL		2.17	0.12	18.1	3.7	

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	4.2	2.5	29.3	14.9	1.4	0.4	50.8	1,148	8.3
2	5.2	4.3	3.8	66.5	17.3	3.0	0.1	26.0	2,537	7.2
3	5.4	4.3	1.9	13.8	1.7	0.1	0.1	12.3	2,227	9.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては西川統があるが、腐植層が浅いので区別される。

A-3 母材

非固結火成岩（火山浮石砂）／固結水成岩

A-4 堆積様式

風積（火山性）／洪積

B 地 形

標高40~200mの段丘

C 気 候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

放牧地、採草地で一部に畑がある。

E 農業上の留意事項

侵蝕防止、施肥の合理化、深耕もしくは混層耕

F 分 布

北海道新冠郡新冠町兵栄、東川、大狩部、節婦、東泊津の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
節 婦 - 節 婦	III s II f e

② 土壌区別説明

節 婦 統 - 節 婦 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壌	表 土	表 土	表 土	透 透	保 保	湿 湿	然 然	固 固	土 土	置 置	有 有	酸 酸	障 障	災 災	傾 傾	傾 傾	侵 侵	耐 耐
効 効	土 土	耘 耘	土 土	地 地				層 層	分 分	換 換	" "	効 効	害 害	埋 埋	冠 冠	す す	水 水	風 風
産 産	土 土	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の
力 力	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の
可 可	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の	の の
能 能	厚 厚	含 含	難 難	着 着	乾 乾	沃 沃	状 状	豈 豈	含 含	" "	" "	" "	素 素	度 度	無 無	性 性	度 度	斜 斜
性 性	等 等	深 深	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性
級 級	さ さ	量 量	易 易	湿 湿	度 度	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力	力 力
	t d g p		w		f		n						i	a	s		e	
	III I I I I	I I I I I	(2) I	I I I I I	II I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	I I I I I	III 3	- -	II I I I I	
簡略分級式	III s II f e																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は節婦統に属する。表土の厚さは60～65cmで深く、有効土層1m以上あつて深い。表土の土性中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性良、保水性中で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小（次層は大）、塩基状態中で肥沃度は中位である。養分では燐酸中で他は多めである。酸度がやや強い、10前後の傾斜地で侵蝕のおそれが大きい。

B 植生及び利用状況

採草地、放牧地で一部に畑もある。

C 地力保全上の問題点

表土の土性粗かつ傾斜地なので土壌保全につとめること。草地の管理を適切に行ない、畑地には緑作帯を設ける必要がある。保水性を高めるために深耕、混層耕（60cm）が行なわれているが次層は燐酸の吸収力が大きいので熔燐を改良資材として投入する必要がある。

D 分 布

北海道新冠郡新冠町共栄、東川、大狩部、節婦、東泊津の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

田 原 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量10%内外。土性はSLを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度1。弱度の細粒状構造。ち密度15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(Tab、U-c)

第2層は厚さ25cm前後で腐植含量15%内外。土性はLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の塊状構造で細孔に頗る富む。ち密度15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。(T a - c 混?)

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き中円礫を含む。土性はLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4。弱度の塊~細塊状構造で細孔に富む。ち密度は15前後で疎である。下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね65cm以下で中円礫(未風化)よりなる礫層

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町田原 試坑No. S67

第1層	0~22cm	腐植頗る富む黒(7.5YR2/1)のSL。弱度の細粒状構造。ち密度16で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第2層	22~47	腐植頗る富む黒(10YR2/1)のsIL。弱度の塊状構造。細孔頗る富む。ち密度17で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.0。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第3層	47~63	腐植欠く鈍黄褐(10YR4/3)のL。中円礫含む。弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度17で疎。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第4層	63~	未風化中円礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22			48.2	22.2	21.6	8.0	SL			4.70	0.35	13.4	7.9
2	22~47			17.7	28.0	47.6	6.7	sIL			8.30	0.53	15.7	13.2

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	Kc1			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.9	4.2	2.5	23.7	4.7	1.2	0.1	19.8	1.112	1.1
2	5.0	4.2	7.5	47.5	2.0	1.5	0.1	4.2	2.418	0.3



#### A 土壤区の特徴

この土壤区は田原統に属する。表土の厚さ40～45cmで深く、有効土層60cm前後で中庸である。表土の土性中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性大、保水性やや大で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態不良で肥沃度は低い。養分ではいずれも中～少なく強酸性を呈する。障害性、災害性は特になく侵蝕のおそれは少ない。

#### B 植生及び利用状況

採草地 放牧地で一部に畑がある。

#### C 地力保全上の問題点

いづれの養分も不足しているから増施すべきで特に加里、燐酸に重点をおき、燐酸の半量は熔燐を使用することが望ましい。酸性矯正としての炭カルは10aあたり600～700kg要する。混和を充分に行なうこと。

#### D 分 布

北北海道静内郡静内町田原の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

### 上 豊 岡 統

#### (1) 土壤統の概説

##### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量8%内外。土性はSLを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度1。弱度の粒状構造。ち密度1.8前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5～6。下層との境界は明瞭である。(Ta-b、U-c)

第2層は厚さ5cm前後で腐植を欠く浮石砂層である。色は10YRで明度7～8、彩度2～3。下層との境界は明瞭である。(U-c)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量10%内外。大円礫に富む。土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度は疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は漸変である。

第4層は概ね40cm以下で大円～半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町上豊畑 試坑No. S 6 6

第1層	0~21cm	腐植富む黒(7.5YR2/1)のSL。弱度の粒状構造。ち密度1.8で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第2層	21~24	腐植欠く浅黄橙(10YR8/3)のSの浮石層。層界明瞭
第3層	24~40	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のL。大円礫富む。弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半湿。層界漸変
第4層	40~	未風化の大円礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	総含窒重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21			63.9	17.0	14.0	5.1	SL			4.83	0.37	13.0	8.0
2	21~40			9.7	38.0	39.2	13.1	L			6.59	0.35	18.8	10.7

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.7	5.2	1.3	19.2	13.0	1.6	0.3	67.7	756	4.1
2	5.4	4.8	1.3	40.3	22.5	3.2	0.7	55.8	2034	0.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては高江統、朝日統があるが高江統の断面に出現する礫の種類、風化程度が本統と異なり、また朝日統には礫がないので区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩(火山浮石砂) /

A-4 堆積様式

風積(火山性) / 水積(扇状堆土)

B 地 形

扇状地

C 気 候

年平均気温 7.7℃

年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

放牧地、採草地、畑地である。

E 農業上の留意事項

施肥の合理化、酸性矯正、侵蝕防止

F 分 布

北海道静内郡静内町上豊畑の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上豊畑 - 上豊畑	III d II n i s e

② 土壌区別説明

上豊畑統 - 上豊畑区

示 性 分 級 式

土 壤 生 産 力 の 可 能 性 等 級	表 土 効 率 の 深 さ	表 土 粒 質 の 易 量	表 土 の 粘 土 含 量	土 地 の 風 乾 性 湿 度	自 然 潤 肥 沃 性 度	固 定 力 小	養 分 換 率 否	直 接 性 量	微 酸 性 素 度	障 害 質 的 障 害 性	災 害 的 障 害 性	傾 斜 度 斜	傾 斜 度 斜	侵 蝕 度 性	耐 風 水 蝕 性
t d g p	w	f	n	i	a	s	e								
III I III I I I I (2)	I	1 2 1	I	2 1 1	II	1 1 2 2 1 2	II	1 2	I	1 1	II	2 - -	II	2 2 2	
簡略分級式		III d II n i s e													

A 土壌区の特徴

この土壌区は上豊畑統に属する。表土の厚さ40cm前後で深く、有効土層40cm前後で浅い。表土の土性中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない(局部的に滲透水の影響で湿性を呈するところがある)。

保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は高い。養分では加里、燐酸が中で他は多い。弱酸性を呈する。除去やや困難な障害があり、5度前後の傾斜でかつ表土の土性が粗いため侵蝕を受けやすい。

B 植生及び利用状況

放牧地、採草地、畑である。

C 地力保全上の問題点

作土の浅いところ多く、かつ次層に薄層の浮石層が存在し、根群伸長に阻害となつていたので深耕すること。加里、燐酸が少なめなので増施するのが望ましい。酸性矯正には10aあたり300kg前後の炭カルを取布し混和を充分に行なうこと。緑作帯を設け、また草地の肥培管理を適切に行なつて土壤保全につとめる。

D 分 布

北海道静内郡静内町上豊畑の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

高 江 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量10%内外。土性はSLを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度1。弱度の粒状構造でち密度1.8前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)4.5前後。下層との境界は明瞭である。(Ta-b, U-c)

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量15%内外。土性はCLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。中～強度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.8前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外。風化小～中円～半角礫に頗る富む。土性はCLを主とする。色は2.5Yで明度3～4、彩度1。中度の細粒状構造と中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度は中。下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね45cm以下で風化小円～半角礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町高江 試坑No. n24

第1層	0～20cm	腐植頗る富む黒(7.5YR2/1)のCL。弱度の粒状構造。ち密度1.7で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.6。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第2層	20～30	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のLic。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.7で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.8。調査時の湿り半湿。層界判然
第3層	30～47	腐植含む黒褐(2.5Y3/1)のCL。風化小、中円礫頗る富む。中度の細粒状、細塊状構造。細孔含む。ち密度は疎。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第4統	47～	灰黄褐(10YR4/2)のCLをはさむ風化～半風化の小～中円～半角礫よりなる礫層



代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 $g$	具比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.8		40.3	18.5	23.8	17.4	CL			4.05	0.31	12.8	6.7
2	20~47	7.2		7.2	21.8	36.6	34.4	LiC			3.75	0.28	13.2	6.0

層位	P H		置換酸度 $Y_1$	塩基置換容量 $me/100g$	置換性塩基 $me/100g$			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 $mg/100g$
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.6	3.8	3.8	21.8	9.8	1.0	0.3	44.9	62.4	4.2
2	4.8	3.8	3.8	27.7	15.6	1.2	0.4	56.3	77.4	4.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては朝日統があるが礫層がないので区別される。

A-3 母 材

非固結火成岩 (火山浮石砂) / 半固結水成岩 (砂岩・頁岩)

A-4 堆積様式

風積 (火山性) / 水積 (扇状堆土)

B 地 形

扇状地

C 気 候

年平均気温 7.7℃

年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

概ね採草地。放牧地である。

E 農業上の留意事項

施肥の合理化、酸性矯正

F 分 布

北海道新冠郡新冠町朝日、高江の一部

静内郡静内町豊畑の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
高 江 - 高 江	H d f n i s

② 土壤区別説明

高江統 - 高江区

示性分級式 (畑)

土壌	表土	表土	耕起	表土	表土	土	透	保	湿	自	保	固	土	養	直	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐						
産力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の					
可能	性	厚	深	含	難	着	乾	沃	状	豈	含	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否					
級	さ	さ	量	易	易	易	湿	度	度	度	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否	否					
	t	d	g	p			w			f				n						i			a			s						e					
II	I	II	I	I	I	I	1	1	(2)	I	1	2	1	II	1	1	2	II	1	2	2	2	1	3	II	1	2	I	1	1	II	2	--	I	1	2	1
簡略分級式		II d f n i s																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は高江統に属する。表土の厚さは30cm前後で深く有効土層50cm以上で中庸。表土の土性中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性良。保水性大で過湿過乾のおそれは少ない(局部的に滲透水の影響で湿性を呈する)。

保肥力大、固定力ごく小、塩基状態中で肥沃度は中位である。養分分ではいずれも中で、強酸性を呈する。除去やや困難な障害がある。

B 植生及び利用状況

概ね採草地、放牧地である。

C 地力保全上の問題点

いずれの養分も不足気味であるから増肥すること。特に加里、燐酸が欠乏しやすいので留意すること。燐酸肥料の半量は熔燐などの苦土入り肥料を使用することが望ましい。

強酸性を呈しているので700~800kg/10aの炭カルを数回に分けて散布し充分な混和を行なうこと。

D 分 布

北海道新冠郡新冠町朝日、高江の一部

静内郡静内町豊畑の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

# 朝 日 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15 cm前後で腐植含量3%内外、土性はSLを主とする。色は7.5 Y Rで明度2～3、彩度1～2。弱度の細粒状構造を呈し、ち密度1.8前後で疎である。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は明瞭である。(T a - b, U - c)

第2層は厚さ10～15 cmで腐植を欠く浮石砂層、下層との境界は明瞭である。(U - c)

第3層は厚さ15 cm前後で腐植含量10%内外、土性はCL～Cである。色は7.5 Y Rで明度1、彩度1。中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.8前後で疎である。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は判然である。

第4層は厚さ15 cm前後で腐植含量5%内外、土性はCLを主とする。色は7.5 Y Rで明度2～3、彩度2。中度の細塊状構造。細孔に富む。ち密度1.8前後で疎である。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は明瞭である。

第5層は概ね6.5 cm以下で腐植を欠き、まれに中円礫を含む。土性はCLを主とする。色は7.5 Y Rで明度4～5、彩度6。弱度の塊状構造で細孔含む。ち密度2.0前後で中である。PH (H<sub>2</sub>O) 4.5～5.5

### 代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町若園 試坑No. n 1

第1層	0～17cm	腐植含む黒(7.5 Y R 2 / 1)のSL。弱度の細粒状構造。ち密度1.7で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第2層	17～28	腐植欠く浅黄(7.5 Y R 7 / 4)のS(浮石層)。無構造で単粒状。ち密度1.9で中。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第3層	28～40	腐植頗る富む黒(7.5 Y R 1 / 1)のLiC。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.8で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り半湿。層界判然
第4層	40～60	腐植富む黒褐(7.5 Y R 3 / 2)のCL。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.7で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第5層	65～	腐植欠く褐(7.5 Y R 4 / 6)のCL。弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度2.2で中。PH (H <sub>2</sub> O) 4.7。調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒徑組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全素素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	2.2		76.1	12.6	8.0	3.3	LS			1.73	0.10	17.3	3.0
2	28~40	6.9		16.7	24.8	32.2	26.3	LiC			3.18	0.20	16.4	5.6
3	40~65	6.7		16.4	26.0	35.3	22.3	CL			2.10	0.14	15.0	3.6
4	65~	6.5		4.1	35.3	30.6	30.0	LiC						

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.4	1.3	15.5	3.8	0.3	0.1	24.5	546	3.1
2	5.3	4.3	1.9	37.5	22.7	1.1	0.5	60.5	1,416	4.3
3	5.5	4.2	2.5	23.0	8.8	1.4	0.4	38.3	1,589	3.6
4	4.7	3.5	30.0	27.3	8.0	2.1	0.3	29.3	1,176	3.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては上豊畑統、高江統があるがいずれも下層に礫層が存在するので区別される。

A-3 母材

非固結火成岩（火山浮石砂）／固結水成岩

A-4 堆積様式

風積（火山性）／水積（扇状堆土）

B 地形

段丘上の扇状地

C 気候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、放牧地、畑地である。

E 農業上の留意事項

混層耕（もしくは深耕）、施肥の合理化、酸性矯正、侵蝕防止

F 分布

北海道新冠郡新冠町 若園、緑丘、朝日の一部

静内郡静内町 農屋、御園の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
朝 日 - 朝 日	II fn II t ise

② 土壌区別説明

朝 日 統 - 朝 日 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	有 効 土 層	耕 作 土	(土 質)	(透 水 性)	(保 水 性)	(自 然 土)	(養 分)	(障 害)	(災 害)	(傾 斜)	(侵 蝕)	(耐 久 性)																							
	効 土 層	土 質	土 質	土 質	然	層 分 換	の 性	直 接 効 率	有 害 物 質	災 害 的	冠 水	斜 傾	風 蝕																							
	の 層	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土	の 粘 土																							
	厚 薄	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量	含 量																							
	等 級	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難	易 難																							
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	s	e																								
	II	I	I	I	I	1	1	(2)	I	1	2	1	II	2	1	3	II	2	3	3	2	1	2	II	1	2	I	1	1	II	2	--	II	2	2	1
	簡 略 分 級 式		II fn II t ise																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は朝日統に属する。表土の厚さは15～20 cmで中、有効土層は概ね1 m以上で深い。表土の土性粗～中粒質で耕起・碎土は容易である。透水性良、保水性中で過湿過乾のおそれは少ない(局部的に斜面上部からの滲透水で弱湿性を呈するところがある)。

保肥力中、固定力ごく小、塩基状態不良で肥沃度は全般的に低。養分は苦土と加里が少なく、他は中庸で、強酸性を呈するところが多い。次層の浮石層がやや障害となっており5度前後の傾斜地で一部に水蝕が認められる。

B 植生及び利用状況

採草地、放牧地、畑地である。

C 地力保全上の問題点

一般に作土浅く、かつ次層に未風化な浮石層が存在し根群の伸長を阻害しているので30 cm～40 cmの深耕もしくは60～70 cmの混層耕を実施することが望ましい。全般に各養分が不足しているので増施する必要があり、特に燐酸の半量は燐燐などの苦土入り肥料を使用して苦土の補給をはかること。酸性を呈しているので300～400 kg/10 aの炭カルを散布し充分混和すること。

D 分 布

北海道新冠郡新冠町、若園、緑丘、朝日の一部

静内郡静内町農屋、御園の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和 46年 3月 31日

豊 畑 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量2%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3。弱度の細粒~細塊状構造でち密度1.0前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5~6.0。下層との境界は判然である。

第2層は厚さ20~25cmで腐植を欠き、土性はCLを主とし、U-cの浮石が散在する。色は10YRで明度4~6、彩度2~3。弱度の塊~細塊状構造で細孔に富む。点状斑を含む。ち密度1.5前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ3cm前後で腐植含量5%前後。土性はCLを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2。弱度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度は疎。下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね45cm以下で腐植を欠き、土性はCLを主とし、U-cの浮石が散在する。色は10YRで明度4、彩度3~4。弱度の細塊~塊状構造で細小孔に富み、点状斑を含む。ち密度1.5前後で疎である。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町豊畑 試坑No. S50

第1層	0~20cm	腐植含む鈍黄褐(10YR 5/3)のCL。弱度の細粒状構造。ち密度9で極疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.7。調査時の湿り半乾。層界判然
第2層	20~43	腐植欠く鈍黄褐(10YR 4~5/3)のSiCL。弱度の塊~細塊状構造。細孔富む。ち密度1.5で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.5。調査時の湿り半湿
第3層	43~46	腐植富む黒褐(10YR 3/2)のCL。弱度の細塊状構造。細孔富み、小孔含む。ち密度疎。調査時の湿り半湿
第4層	46~	腐植欠く鈍黄褐(10YR 4/3)のCL。弱度の細塊状構造。細小孔含む。ち密度1.6で疎。調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	炭含量 重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.3		1.3	34.4	44.7	19.6	CL			1.48	0.14	10.3	2.5
2	20~43	3.5		0.5	28.1	51.1	20.3	siCL			1.27	0.12	10.3	2.1

層位	P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.7	4.4	1.3	20.1	12.2	4.5	0.8	60.7	712	2.9
2	5.5	4.3	2.5	21.3	13.3	5.4	0.6	62.4	826	2.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては浦和統、農屋統があるが浦和統は湿性を呈し、農屋統は深層が極めて浅いので区別される。

A-3 母 材

固結水成岩等

A-4 堆積様式

水積(扇状堆土)

B 地 形

扇状地

C 気 候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、畑地となつている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、施肥の合理化、酸性矯正

F 分 布

北海道新冠郡新冠町泉の一部

静内郡静内町豊畑の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 畑 - 豊 畑	Il t p n s

② 土壤区別説明

豊畑統 - 豊畑区

示性分級式 (畑)

土壌	表土	表土	耕土	表土	表土	透	保	湿	白	保	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	地	傾	目	傾	人	侵	耐	
生産力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
可	能	性	厚	等	級	さ	さ	量	易	性	性	性	度	力	態	量	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
t	d	g	p							w																			
II	II	II	II	2	2	1	I	1	2	1	I	1	2	1	II	1	1	1	2	1	2	I	1	1	I	1	I	1	1
簡略分級式		II t p n s																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊畑統に属する。表土の厚さは20cm前後で中、有効土層1m以上で深い。表土の土性は細粒質で粘着性強く耕耘・碎土はやや困難である。透水性良、保水性中で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力大、固定力小、塩基状態良好で肥沃度は高い。養肥分では磷酸中庸で他は多めである。一般に弱酸性を呈する。障害性、災害性なく、水蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

採草地、畑地である。

C 地力保全上の問題点

腐植少なく、作土の浅いところが多いので堆肥などの有機物、炭カル(30.0~40.0Kg/10a)などを施用しながら漸次30cm程度まで深耕すること。燐酸が不足気味であるから増肥することが望ましくその半量は熔燐を用いて苦土を補給すること。

D 分布

北海道新冠郡新冠町泉の一部

静内郡静内町豊畑の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日



浦 和 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外。土性はCLを呈する。色は10YRで明度3~4、採度2。弱度の細塊状構造と板状構造でち密度20前後で中である。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で小円礫よりなる礫層。下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、小円礫に富む。土性はCLを呈する。色は2.5Yで明度5~6、彩度2~3。無構造で均質状を呈する。ち密度は疎である。下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね40~45cm以下で腐植を欠き土性はCを呈する。色は5Yで明度5~6、彩度1~2。無構造で均質状を呈する。ち密度は疎である。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町川合 試坑No. S37

第1層	0~21cm	腐植富む灰黄褐(10YR4/2)のLiC。板状構造を呈する。ち密度22で中。PH(H <sub>2</sub> O)4.9。調査時の湿り半湿。層界明瞭
第2層	21~31	純黄褐(10YR5/3)の小円礫よりなる礫層
第3層	31~43	腐植欠く黄褐(2.5Y5/3)のCL。小円礫富む。無構造で均質状。ち密度疎。調査時の湿り湿。層界明瞭
第4層	43~	腐植欠く灰オリーブ(5Y5/2)のC。無構造で均質状。脈状斑富む。ち密度疎。調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	4.6		7.3	30.3	32.4	30.0	LiC			2.13	0.20	10.7	3.5

層位	PH		交換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	交換性塩基 me/100g			飽和度 %	燐酸吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.9	4.1	2.5	25.6	10.1	0.9	1.6	39.5	73.2	1.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては豊畑統、農屋統があるが豊畑統は稜層なく、農屋統は湿性を呈さないもので区別される。

A-3 母材

固結水成岩等

A-4 堆積様式

水積（扇状堆土）

B 地形

低平地に接する扇状地

C 気候

年平均気温 7.7℃                      年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、放牧地、畑地である。

E 農業上の留意事項

排水完備、深耕、有機物施用、施肥の合理化、酸性矯正

F 分布

北海道新冠郡新冠町                      の河川流域低平地に接する扇状地の一部  
静内郡静内町

調査及び記載責任者      宮脇      忠      （北海道立中央農業試験場）

年      月      日                      昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
浦 和 - 浦 和	ll t p w f n i

② 土壌区別説明

浦 和 統 - 浦 和 区

示性分級式 (畑)

土壌	表土	表土	耕土	(土)	(透)	(目)	(養)	(障)	(災)	(傾)	(侵)	(耐)																				
生産力	効	土	土	の	然	層	換	効	害	冠	す	斜																				
可能	厚	含	粘	乾	沃	状	豊	含	素	無	傾	傾																				
性	深	難	土	乾	沃	状	豊	含	素	無	傾	傾																				
等	深	性	性	性	度	力	懸	量	素	度	無	傾																				
級	さ	量	易	(湿)	(度)	(否)	(性)	(性)	(斜)	(斜)	(度)	(性)																				
	t	d	g	p	w	f	n		i	a	a	e																				
II	II	I	I	II	2	2	I	II	2	1	2	II	1	2	II	1	2	1	2	1	3	II	1	2	I	1	1	1	I	1	1	1
間略分級式		II t p w f n i a a e																														

A 土壌区の特徴

この土壌区は浦和統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層1m以上で深い。表土の土性は細粒質で耕起・碎土はやや困難である。透水性中、保水性大で湿性を呈している。保肥力大、固定力小、塩基状態中で肥沃度は中位である。養肥分は加里、燐酸が中～少なく他は多く、強酸性を呈する。次層にうすい礫層が存在し障害となつている。

B 植生及び利用状況

採草地、放牧地、畑地である。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているので排水を完全なものにすること。有機物を施用しながら深耕し作土層の深化をはかること。加里、燐酸に欠乏しているので増肥する必要がある。酸性矯正に要する炭カル量は400～800Kgで混和を充分に行なうこと。

D 分布

北海道新冠郡新冠町の各河川流域の低平地に接する扇状地の一部  
 静内郡静内町

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

農 屋 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量5%内外。小～中円礫に頗る富む。土性はLを主とする。

色は 10YR で明度 3~4、彩度 2。弱度の塊状構造で密度は中である。PH (H<sub>2</sub>O) 4.5~5.0。下層との境界は明瞭である。

第 2層は概ね 15cm 以下で未風化の小~中円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 静内郡静内町農屋 試坑 No. S49

第 1層	0~15cm	腐植富む黒褐 (10YR 3/2) の CL。小中円礫頗る富む。弱度の塊状構造。ち密度中。PH (H <sub>2</sub> O) 4.8。調査時の湿り半乾。層界明瞭
第 2層	15~	小中円礫 (未風化) よりなる礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	総合量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15			27.0	26.6	23.6	22.8	CL			3.00	0.28	10.7	5.0

層位	PH		置換酸 度 Y,	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.8	4.0	3.8	24.0	12.5	4.8	0.3	52.1	722	0.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては浦和統があるが湿性を呈するので区別される。

A-3 母 材

固結水成岩等

A-4 堆積様式

水積 (扇状堆土)

B 地 形

扇状地

C 気 候

年平均気温 7.7℃ 年降水量 1,022mm

D 植生及び利用状況

採草地、放牧地、畑地である。

E 農業上の留意事項

有機物施用、除石、施肥の合理化、酸性矯正

F 分 布

北海道新冠郡新冠町各地の扇状地の一部

静内郡静内町



D 分 布

北海道新冠郡新冠町 各地の扇状地の一部  
静内郡静内町

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

駒 場 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量15%内外。土性はSLを主とする。色は10YRで明度1、彩度1。弱度の細塊状構造、ち密度は15前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)4.5前後(第2層合)。下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm前後で腐植含量20%以上。黒泥状を呈する。色はNで明度1、彩度1。弱度の塊状構造である。ち密度は疎である。下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ15cm前後でヨシを構成植物の主とする低位泥炭。H<sub>3</sub>で分解不良。黒い泥土を混入する。PH(H<sub>2</sub>O)4前後(第4層合)。下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね40cm以下でヨシを構成植物とする低位泥炭。H<sub>6</sub>で分解やや良。黒い泥土を混入する。

代表的断面形態

(所在地) 新冠郡新冠町新冠 試坑No. n15

第1層	0~18cm	腐植頗る富む黒(10YR1/1)のSL。弱度の塊状構造。ち密度14で疎。PH(H <sub>2</sub> O)4.4。調査時の湿り湿。層界明瞭
第2層	18~23	黒(N1/1)の腐植土。弱度の塊状構造。ち密度疎。調査時の湿り湿。層界明瞭
第3層	23~38	褐(7.5YR4/4)のヨシを主とする低位泥炭。H <sub>3</sub> で分解不良。泥土を少量混入する。PH(H <sub>2</sub> O)4.2(第4層合試料)。調査時の湿り潤。層界明瞭
第4層	38~	褐(7.5YR4/4)のヨシを主とする低位泥炭。H <sub>6</sub> で分解やや良。泥土を少量混入する。調査時の湿り潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	有機量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	塊地容 比重 $\rho$	具比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	4.7		5.7	17.9	18.3	6.8	SL						
2	23~	15.4		-	-	-	-	(LP)						

層位	PH		直換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換塩基 me/100g			飽和度 %	腐酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	4.4	3.7	7.5	25.0	6.4	0.5	0.1	25.6	1,284	11.4
2	4.2	3.4	7.5	9.46	2.40	2.5	0.2	25.4	1,151	8.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統はない。

A-3 母 材

非固結火成岩（火山浮石砂）／ヨシ

A-4 堆積様式

風積（火山性）／集積（低位泥炭）

B 地 形

海岸近くの低平地

C 気 候

D 植生及び利用状況

放牧地、採草地である。

E 農業上の留意事項

酸性矯正、排水完備、施肥の合理化

F 分 布

北海道新冠郡新冠町新冠の一部

静内郡静内町駒場、田原、豊畑、東静内、春立、東別の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
駒 場 - 駒 場	ll w f n II t a





### 3 保全対策地区区分及び説明

#### 1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

(水田)

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
大富保全 対策地区	神森 大富 中野 東川 東別	965	有効土層が深い 表土の土性がいづれも細粒 質である。	磷酸と加里の増施 珪カルの使用 排水施設の完備(東別) 健苗の育成
目名保全 対策地区	目名 静内	659	下層に砂礫層が出現し土層 が浅い。 腐植が少ない。	有機物施用 磷酸と加里の増施 珪カルの使用 健苗の育成

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
リビラ保全 対策地区	真歌 御園 リビラ 川合 西川 節婦 上豊畑 朝日 田原	7,010	表土は粗い浮石砂よりなる 5度以上の傾斜地である。 (御園、田原を除く) 表層は火山性土である 弱～強酸性を呈する。	深耕または混層耕 施肥の合理化 酸性矯正 侵蝕防止
豊畑保全 対策地区	高豊 豊農	920	扇状堆土である。 強酸性を呈する。	深耕 有機物施用 施肥の合理化 酸性矯正
駒場保全 対策地区	浦和 駒場	705	排水不良である。 強酸性を呈する。	排水施設の完備 深耕 有機物施用 施肥の合理化 酸性矯正

## 2) 保全対策地区別説明

### 水田

#### < 大富保全対策地区 >

##### (1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
新冠郡新冠町 静内郡静内町	965	神森、大富、中野、東川、東別

##### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

###### ① 特徴と問題点

表土の土性は細粒質である。養分はやや多めであるが加里、燐酸に不足気味のところが  
多い。なお東別統は下層が低位泥炭で過湿となっている。

###### ② 営農の方向、その他

安全確保につとめること。健苗の育成、熟苗の使用が重要である。

##### (3) 地力保全対策

###### ① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
施肥の合理化 健苗の育成	全区 965	燐酸加里の増施、硅カルの使用 健苗育成技術の確立	指導の徹底
有機物施用	大富、東川 590	完熟堆肥の施用、素ワラの 秋鋤こみ	指導の徹底
排水施設の完備	東別 75	組織的な排水工事を行なう	工事費の助成 資材の補助

#### < 目名保全対策地区 >

##### (1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
新冠郡新冠町 静内郡静内町	659	目名、静内

##### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

###### ① 特徴と問題点

砂深層が浅い新しい河成沖積地で腐植が少ないが排水良好な生産性のわりと高い水田である。パイロット事業等による客土が行なわれているところがあるが客入土量がやや不足している。

###### ② 営農の方向その他

安全確保につとめ健苗育成や熟苗の使用などにより初期生育を良くすること。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
有機物施用 施肥の合理化 深耕	全区 659	完熟堆肥の施用、案ワラの秋鋤 こみ燐酸加里の増施、硅カルの使用 20cm程度まで深耕	指導の徹底
客土と除石	静内 238	粘質土の客入 中礫以上を除く	100m <sup>3</sup> 工事費の助成

(畑)

<リビラ保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
新冠郡新冠町 静内郡静内町	7,010	真歌、御園、リビラ、川合、西川、節婦、上豊畑、朝日、田原

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

数種の火山灰が累積する火山性土で表土は細粒な浮石の堆積よりなる。一般に腐植に富み、かつ埋没腐植層を有する。傾斜地が多く、水蝕のみられるところがある。燐酸を主として各養分が次乏しやすい。強酸性を呈するものが多い。

② 営農の方向、その他

主畜経営を更に推進すべきで施肥技術を合理化し、草地肥培につとめること。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深耕もしくは 混層耕 施肥の合理化 酸性矯正	全区 7,010	30cm程度の深耕もしくは50～ 60cmの混層耕 燐酸・加里の増施、苦土入り肥料 の使用	大型機械の導入 指導の徹底
侵蝕防止	御園、田原を除く 6,205	炭カル600～800kg/10a 散布 草地拡大、匍匐性牧草の栽培 草地肥培管理の徹底	指導の徹底

< 豊畑保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
新冠郡新冠町 静内郡静内町	9 2 0	高江、豊畑、農屋

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

山地あるいは段丘と河川流域の低平地の間に分布する扇状地で一部を除き礫層が浅く、養分特に燐酸と加里が少ない。一般に作土が浅く、強酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

家畜の導入を推進し、更に主畜化をはかること。合理的に施肥対策を確立すること。草地の肥培管理に努める必要がある。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深耕 有機物施用 施肥の合理化 酸性矯正	全区 9 2 0	有機物(堆肥など)を施用しながら漸次深耕(30cm程度)すること。燐酸加里を増施、苦土肥料を使用 炭カル600~700kg/10a散布	指導の徹底
除石	農屋 2 7 8	中礫以上を除く	指導の徹底

< 駒場保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
新冠郡新冠町 静内郡静内町	7 0 5	駒場、浦和

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

排水不良の扇状堆土と低位泥炭土でいずれも湿地である。いずれも養分不足し、かつ強酸性を呈する。一般に作土が浅めである。

② 営農の方向、その他

主畜経営を更に推進し、草地の肥培管理を徹底すること。合理的な施肥技術を確立すること。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水完備 施肥の合理化 深耕 酸性矯正	全区 705	組織的に暗渠工事を行なう 燐酸・加里の増肥、苦土肥料の使用 30cm程度まで深耕 灰カル650～700kg/10a (泥炭1ton/10a)を数回に分けて散布し混和を充分に行なう	資材費、工事費の切実 指導の徹底 " "

# 土 壤 分 析 成 績

水田 その1

保 全 策 区	土 壤 区	地 点 号 号	層 位	深 さ cm	理 学 性															
					保 深 (風 乾物中) w %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					性	に お け る 100cc 谷 中						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %			
大 富 保 全 策 区	神 森	n 25	1	0~20		4.0														
			2	20~30		9.8														
		S 12	1	0~20		3.7	8.2	28.8	16.1	44.9	26.1	29.0	Lic							
			2	20~43		4.8	7.6	0.2	15.5	15.7	37.4	45.0	H c							
	S 20	3	43~65		4.5	1.4	2.4	7.9	8.3	46.7	45.0	H c								
		4	65~		4.2	1.2	0.9	22.7	23.6	37.9	38.5	Lic								
	中 野	n 16	1	0~16		4.4	42.8													
			2	16~30		7.9														
			3	30~42		6.5														
			4	42~54		8.1														
		S 11	1	0~22		4.8	13.4	45.1	19.3	64.4	2.20	13.9	L							
			2	22~32		5.9	10.6	5.3	12.9	18.2	35.2	46.6	H c							
			3	32~47		3.3	1.4	0.4	23.6	24.0	36.3	39.7	Lic							
			4	47~		2.5	0.6	0.3	53.4	53.7	27.2	19.1	c L							
	東 別	n 45	1	0~20		3.2														
			2	20~50		8.5														
S 2		1	0~20		4.9															
		2	20~42		6.9															
S 4	3	42~51		7.2		0.4	2.5	2.9	27.7	69.4	H c									
	4	51~		10.3																
大 富	n 20	1	0~24		3.1															
		2	24~65		1.7															
	n 50	1	0~12		2.4	3.8	20.3	4.11	6.14	24.6	14.0	L								
		2	12~24		7.9	3.9	12.5	4.22	5.47	28.1	17.2	c L								
		3	24~33		2.7	4.1	23.6	3.19	5.55	27.4	17.1	c L								
	n 51	1	0~16		3.3	3.3	14.0	40.3	54.3	29.6	16.1	c L								
		2	16~51		3.6	1.3	1.9	49.1	51.0	24.1	24.9	c L								
	S 21	1	0~13		2.4	4.1	9.7	2.17	3.14	45.1	23.5	sicL								
		2	13~38		2.9	2.5	0.3	21.5	21.8	47.8	30.4	sic								
		3	38~53		2.2	1.6	0.1	34.8	34.9	43.6	21.5	c L								
	S 22	1	0~21		2.2		3.1	45.7	48.8	34.4	1.68	c L								
		2	21~39		1.8		4.9	42.3	47.2	30.9	2.19	c L								
3		39~58		1.5		3.9	55.5	59.4	25.6	15.0	c L									

化 学 性																	
PH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 置 換 容 基 量 me/100g	直 換 性 塩 基 100g中			飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30°C NH <sub>3</sub> -N 發 生 量 mg/100g		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾 土	濕 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
6.5	5.8	1.9				208	10848	40.2	50.3	186.0	921				7.5		
5.6	4.7	1.3				55.4	10928	562	49.0	70.4	1830				4.9		
5.2	4.5	0.6	4.95	0.36	139	282	2969	39.3	9.3	37.6	1,098		12.11		2.49	15.4	
5.0	4.5	1.3	4.65	0.30	15.3	426	7655	84.6	18.9	64.1	1,366		14.7		6.2	2.24	
5.6	4.5	1.3	0.86	0.08	10.4	28.3	622.3	74.3	23.5	78.5	1,072				5.0	2.05	
5.9	4.1	1.3	0.71	0.07	10.3	23.1	421.6	136.3	19.4	64.9	928				6.0	2.34	
5.0	4.3	1.3	3.78	0.28	13.6	27.2	289.9	25.0	9.3	46.4	892		9.64		3.19	1.76	
5.8	4.7	0.6	3.98	0.30	15.2	14.6	234.4	42.1	12.1	57.5	1,196		4.86		11.5	2.36	
5.7	4.5	1.3	0.93	0.05	18.2	15.4	210.2	26.4	8.2	48.7	598				13.4	1.59	
4.7	3.8	3.8				21.9	224.6	35.6	12.3	36.5	1,098				10.4		
4.9	4.2	5.0				29.9	399.9	61.9	9.9	47.8	1,401				9.8		
5.0	4.0	2.5				28.5	509.3	47.1	11.5	63.9	1,086				5.4		
4.9	3.9	3.8				36.9	643.1	11.7	12.8	62.1	1,454				5.1		
4.9	4.4	13	8.18	0.54	15.1	28.0	396.9	22.9	18.9	50.7	1,142		12.25		37.8	10.7	
5.1	4.2	13	6.53	0.38	17.0	39.3	405.3	55.7	9.6	36.9	1,490		7.43		17.5	10.3	
5.4	4.0	2.5	0.85	0.08	10.4	19.6	249.3	85.9	8.9	45.4	688				12.7	1.18	
5.4	4.0	3.8	0.35	0.04	8.5	15.4	172.6	99.3	5.3	40.3	618				9.8	1.41	
5.0	4.1	2.5				15.5	153.4	8.8	18.6	35.5	926				3.8		
4.5	3.7	10.6				38.6	429.4	57.2	3.7	39.6	1,036				3.1		
4.7	4.0	3.8				28.8	259.6	63.6	20.8	32.3	1,250		29.45		19.5	2.77	
4.7	4.0	5.0				50.5	427.7	184.1	56.4	30.3	1,394		20.05		18.7	1.93	
4.2	3.6	16.3				40.3	299.9	236.4	38.6	26.6	964				7.1	1.45	
3.9	3.4	13.8				29.4	406.4	188.8	19.4	49.3	1,304				7.7	1.64	
5.0	4.2	2.5	11.84	0.68	17.4	42.1	398.4	46.0	9.5	33.9	1,884		14.79		11.0	2.74	
5.3	4.2	1.3	11.96	0.68	17.6	48.9	337.8	98.1	10.9	24.5	2,160		12.46		15.2	2.63	
4.6	3.7	33.8	8.16	0.35	23.6	60.3	298.7	139.4	19.6	17.7	1,848				10.4	-	
4.5	3.6	31.3	-	-	-	34.2	268.5	161.2	22.4	28.1	1,018				7.7	1.12	
4.3	3.4	6.9				14.3	172.2	41.5	28.7	42.7	535				7.2		
5.1	4.0	1.9				9.4	153.6	31.5	25.6	58.5	401				11.7		
5.7	4.1	3.0	2.23	0.16	13.9	15.0	203.0	27.4	9.0	58.7	707		7.89		1.0	1.18	
6.0	4.6	1.5	2.29	0.18	12.7	16.0	242.3	51.6	16.2	71.9	733		2.88		3.3	1.72	
6.3	5.1	0.5	2.39	0.18	13.3	17.4	346.6	52.4	19.8	88.5	773				5.3	1.58	
5.8	4.4	1.8	1.91	0.14	13.6	15.2	241.1	41.9	9.3	71.7	569		4.34		4.1	1.06	
5.7	4.2	2.0	0.76	0.07	10.9	17.4	363.4	46.0	26.4	91.4	780		0.14		2.7	1.49	
5.3	4.4	2.5	2.47	0.17	14.2	14.6	204.6	38.9	17.8	50.0	572		8.60		4.45	1.38	
6.1	5.2	0.6	1.48	0.11	13.1	13.9	358.1	54.0	15.0	92.1	696		4.32		2.74	2.19	
5.8	5.0	1.3	0.96	0.06	15.7	13.8	246.4	37.1	15.3	63.8	572				2.59	2.10	
5.5	4.6	1.3				13.8	240.7	37.1	15.3	62.3	518		6.44		3.38	1.48	
5.7	4.7	0.6				11.7	256.9	37.0	11.0	78.6	482		4.27		4.43	1.40	
5.8	4.8	0.6				12.2	233.3	81.8	15.2	68.0	392				4.55	1.30	



水田 その2

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性																
					深 (風乾物中) W%	風 乾 細 土 中		細 土 無 礙 物 中					土 性	における 100cc 容 中							
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 さ	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %			
大 富 保 全 対 策 区	大 富	S52	1	0~17		2.5															
			2	17~31		2.0															
			3	31~		1.9															
	東 川	n53	1	0~16		2.0	2.6	44.7	23.7	68.4	18.1	13.5	SL								
			2	16~29		1.9	2.5	51.8	19.2	71.0	17.2	11.8	SL								
			3	37~		3.7	1.8	3.9	36.0	39.9	33.5	26.6	LiC								
		n57	1	0~18		2.3	3.8	33.2	30.8	64.0	22.3	13.7	L								
			2	18~43		2.9	2.2	0.6	50.9	51.5	28.6	19.9	C L								
			3	43~71		2.7	1.8	0.3	47.3	47.6	30.7	21.7	C L								
	S6	1	0~18		5.5	6.2	16.6	17.9	34.5	35.7	29.8	LiC									
		2	18~		3.9	1.6	0.5	26.7	27.2	38.2	34.6	LiC									
		S7	1	0~20		2.9	2.7	18.5	42.2	60.7	22.0	17.3	C L								
S38	1	0~22		3.1																	
	2	22~37		5.0																	
目 名 保 全 対 策 区	目 名	n2	1	0~18		4.4															
			2	42~		6.5															
		n3	1	0~35		1.4															
			2	35~		3.9															
		n27	1	0~31		1.4															
			2	31~52		2.3															
	n52	1	0~16		2.1																
		2	16~24		3.4																
	n54	1	0~11		2.6																
		n55	1	0~14		2.5	3.1	6.2	50.1	56.3	28.2	15.5	C L								
	静 内	n55	2	14~24		2.8	2.4	6.0	51.5	57.5	27.7	14.8	L								
			n58	1	0~17		3.4														
S15		1	0~10		3.8		0.6	36.2	36.8	36.6	26.6	LiC									
S16		1	0~10		2.9	2.0	4.3	40.9	45.2	28.6	26.2	LiC									
	2	10~35		2.0	3.6	0.6	67.6	68.2	20.8	11.0	S L										

化 学 性

P H		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 置 換 基 量 me 100g	置 換 性 塩 基 1 0 0 g 中			飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30°C NH <sub>3</sub> -N 発 生 量 mg / 100g		有 効 態 mg / 100g		遊 離 酸 化 鉄 %
H <sub>2</sub> O	K C l		T-C %	T-N %	C /N		Ca O	Mg O	K <sub>2</sub> O				乾 土	湿 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>		
5.4	4.4	0.6				154	293.4	37.2	15.6	68.2	696				5.6		
5.8	4.5	0.6				145	326.1	57.5	11.8	80.0	556				13.5		
5.8	4.6	1.3				113	245.7	51.8	10.2	77.9	504				9.5		
5.4	4.1	4.0	1.53	0.12	12.8	11.4	140.2	11.3	12.0	50.9	477		1.42		5.5		0.95
5.9	4.6	0.6	1.46	0.12	12.2	10.4	171.6	13.7	15.0	68.3	526		0.14		1.8		0.85
5.8	4.3	1.0	1.05	0.10	10.5	18.4	384.7	63.7	36.0	96.2	849				4.9		2.00
5.5	4.2	3.5	2.22	0.16	13.9	15.0	286.0	12.1	28.2	76.0	688		5.73		4.7		0.96
6.0	4.5	0.8	1.30	0.10	13.0	14.8	206.4	44.3	21.0	67.6	820		0.14		1.0		1.48
5.9	4.3	2.0	1.02	0.19	5.4	18.8	273.7	41.9	16.2	64.9	691				1.2		1.48
5.1	4.4	1.3	3.81	0.35	10.9	22.2	255.1	85.3	9.5	41.0	776		14.81		4.35		1.03
5.5	4.6	1.3	6.77	0.10	9.5	22.9	324.6	178.0	23.3	50.7	812		14.56		11.7		1.79
5.4	4.3	1.3	1.63	0.14	11.3	15.5	202.2	78.9	11.9	46.5	438		8.65		21.2		1.29
4.8	4.0	8.8				15.9	144.7	44.1	9.5	32.7	670				1.1		
5.0	4.0	5.0				23.8	268.1	163.8	16.4	40.3	866				2.3		
4.8	3.7	5.6				24.9	529.1	42.1	24.5	75.9	860				3.1		
5.6	4.5	1.3				42.3	1029.5	38.0	17.0	86.8	1,001				6.9		
5.1	4.1	2.5				7.2	37.1	6.3	5.9	18.1	389				4.2		
5.4	4.2	1.3				18.6	379.1	17.8	15.8	72.6	904				7.5		
5.9	4.7	1.9				7.4	156.6	20.5	6.1	75.7	420				5.9		
6.0	4.9	1.3				10.8	246.9	27.0	4.3	81.5	524				7.2		
5.8	4.5	0.8				12.8	266.6	20.2	12.0	72.7	270		0.71		3.8		1.18
6.0	4.9	0.6				18.0	266.9	28.2	15.6	62.2	569		2.89		4.3		1.32
6.2	4.7	0.5				14.0	274.8	49.2	32.4	92.1	565		0.14		4.9		1.31
5.3	4.0	7.0	1.81	0.13	13.9	15.4	280.4	33.1	26.4	79.2	573		2.87		4.1		0.98
6.1	4.6	1.0	1.40	0.10	14.0	12.4	122.4	16.9	16.2	44.3	691		0.72		5.8		1.19
5.5	4.1	3.8				20.2	314.0	32.3	22.0	65.8	803		3.62		1.6		1.39
5.9	4.9	1.3				19.0	320.7	171.9	21.2	60.0	794		4.51		23.6		1.46
5.7	4.9	1.3	1.17	0.08	14.3	16.5	294.6	103.8	26.0	63.6	544		2.88		21.6		1.19
5.8	5.2	1.3	2.12	0.12	17.3	13.3	308.9	57.5	19.0	82.7	526		2.14		21.7		1.12

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性															
					礫 (風乾物中) W%	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	に お け る 1 0 0 C C 谷 中						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 ♀	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %		
リ ビ ラ 保 全 対 策 地 区	真 歌	n14	1	0~20		9.4	7.1	32.8	25.9	58.7	35.3	6.0	L							
			2	20~38		18.0	7.3	15.5	33.7	49.2	44.0	6.8	L							
			3	38~52		14.3	5.2	18.0	47.0	65.0	33.9	1.1	L							
			4	52~62		13.0	3.0	23.9	48.2	72.1	26.1	1.8	S L							
	御 園	S68	1	0~22		2.0	7.5	56.2	23.3	79.5	15.1	5.4	S L							
			2	28~53		9.1	14.4	9.7	3.14	41.1	49.0	9.9	SiL							
			3	53~66		9.9	12.8	11.9	40.4	52.3	43.2	4.5	L							
			4	66~79		5.3	7.3	11.3	50.6	61.9	34.9	3.2	L							
			5	79~		6.9	5.7	18.8	52.6	71.4	28.3	0.3	S L							
	n5	1	0~11		3.7															
		2	31~42		9.9															
		3	42~64		11.9															
		4	64~		9.7															
	n10	1	0~14		3.3															
		2	25~41		10.0															
		3	41~		4.9															
	n13	1	0~20		3.0	4.8	63.7	13.8	77.5	18.3	4.2	S L								
		2	20~73		13.5		13.3	2.97	43.0	24.1	32.9	LiC								
	n30	1	0~19		1.7	3.4	84.2	8.0	92.2	5.8	2.0	S								
		2	30~62		8.7	6.6	3.8	37.9	41.7	39.6	18.7	C L								
n36	1	0~22		2.2	2.8	72.2	13.2	85.4	10.6	4.0	L S									
	2	22~52		9.9	6.0	9.3	28.1	37.4	38.9	23.7	C L									
	3	52~73		8.8	2.1	5.3	40.0	45.3	37.8	16.9	C L									
S31	1	0~23		3.7	8.8	44.1	25.7	69.8	20.4	9.7	S L									
	2	23~36		9.2	13.1	7.8	28.6	36.4	35.4	35.8	LiC									
	3	36~58		10.4	8.9	10.6	54.6	65.2	26.0	8.8	S L									
	4	58~		8.8	6.9	15.3	59.1	74.4	21.5	4.1	S L									
S47	1	0~12		3.8	9.2	36.6	27.6	64.2	25.9	9.9	L									
	2	12~37		7.3	10.4	18.3	39.2	57.5	28.8	13.6	L									
	3	37~57		4.8	6.2	24.9	47.0	71.9	22.2	5.8	S L									
	4	57~		5.7	1.2	26.1	22.8	48.9	27.6	23.5	C L									
S56	1	0~21		2.5	8.3	56.1	17.1	73.2	21.1	5.7	S L									
	2	21~37		8.4	12.7	6.7	24.8	31.5	36.8	31.7	LiC									
	3	37~59		7.1	10.0	10.9	45.7	56.6	31.8	11.6	L									
川	S34	1	0~18		7.0	9.7	23.5	29.8	53.3	27.5	19.2	C L								
		2	18~36		8.3	7.1	12.7	56.4	69.1	20.5	10.4	S L								
合	S34B	1	0~20		4.1	8.7	35.1	27.3	62.4	21.8	15.8	C L								
		2	20~32		5.8	8.6	14.8	30.2	45.0	34.1	20.9	C L								
S35	1	0~19		3.1																

化 学 性												
PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	有 無 物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基 100g中			飽和度 %	磷酸吸收係數	有效態 $\frac{mg}{100g}$ P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>
H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
4.7	3.7	63	4.12	0.21	19.6	41.1	216.5	20.3	7.4	18.7	2,279	9.1
4.6	3.7	10.0		0.18		58.0	88.6	8.6	8.5	5.5	2,801	tr
4.5	3.8	3.8	3.01	0.14	21.5	24.7	46.2	1.8	7.0	6.5	2,635	tr
5.4	4.5	1.3	1.73	0.10	17.3	1.29	41.8	2.7	3.2	11.6	2,360	8.1
5.3	4.6	3.8	4.47	0.30	15.1	1.84	210.5	29.6	3.7	40.8	938	0.1
5.2	4.3	3.8	9.23	0.54	17.1	6.27	160.4	6.20	3.1	9.1	2,470	0.1
5.1	4.3	1.3	8.28	0.38	17.3	4.66	4.98	3.22	5.6	3.9	2,478	0.4
5.2	4.5	1.3	4.48	0.25	17.7	2.53	25.3	29.8	21.1	3.6	2,244	0.9
5.2	4.5	0.6	3.57	0.18	19.5	2.47	2.41	2.17	8.2	3.6	2,286	0.1
6.4	5.7	1.9				2.27	599.0	4.63	16.8	9.43	886	4.9
6.4	5.5	1.3				6.18	1429.0	3.99	80.8	8.25	2,267	5.9
5.0	4.1	2.5				2.61	128.0	3.90	4.70	1.76	2,379	6.5
5.1	4.5	1.3				1.35	72.7	1.11	5.81	1.93	2,150	6.3
5.2	4.4	3.1				1.99	274.2	1.04	14.7	4.92	1,084	4.6
4.9	4.0	3.8				3.86	470.7	3.93	14.7	4.35	1,518	8.8
5.1	3.8	7.5				1.96	368.4	3.49	13.2	6.68	856	9.8
4.7	4.1	3.1	2.81	0.16	17.6	1.86	190.0	1.76	10.3	3.82	689	7.5
4.8	3.7	2.5				5.22	383.0	2.56	10.7	2.62	2,575	8.3
4.6	4.0	2.5	1.95	0.11	17.7	5.9	61.6	7.1	2.6	3.73	171	4.2
4.5	3.4	11.9	3.86	0.22	12.1	20.3	69.7	4.2	11.1	12.3	1,500	3.8
5.1	4.1	1.9	1.63	0.09	18.1	9.3	99.3	8.7	8.0	3.70	1,073	9.3
4.9	3.9	3.8	3.51	0.28	12.5	29.0	286.6	14.5	27.2	3.52	841	5.4
5.2	3.9	3.8	1.20	0.10	12.0	2.22	268.8	3.62	19.6	4.32	2,128	3.1
5.4	4.6	0.6	5.34	0.42	12.9	2.35	278.3	2.18	30.1	4.21	1,142	0.9
4.5	3.8	6.3	8.38	0.63	13.4	5.17	191.4	2.66	5.5	1.32	2,294	0.4
4.8	4.2	2.5	5.78	0.38	15.2	3.35	68.9	2.70	5.6	7.5	2,420	0.5
5.7	4.5	1.3	4.38	0.26	16.7	2.59	41.8	7.07	3.1	5.8	2,340	0.7
5.2	4.5	2.5	5.56	0.30	18.4	3.93	110.9	14.2	8.7	10.2	1,460	3.2
4.9	4.1	5.0	6.51	0.36	18.3	3.39	279.6	2.52	5.0	2.95	2,304	0.1
5.1	4.3	2.5	9.01	0.20	18.8	2.09	4.69	8.5	5.2	8.1	1,940	4.6
4.6	3.8	10.0	7.51	0.11	7.1	1.53	109.4	8.37	8.9	2.55	956	0.1
4.8	4.2	2.5	4.97	0.37	13.4	2.15	201.4	2.07	3.7	3.35	1,070	0.1
4.9	4.2	3.8	8.05	6.44	12.5	6.55	563.4	5.72	6.6	3.07	2,096	2.5
5.0	4.2	3.8	6.28	0.44	14.2	4.20	156.9	30.3	4.5	1.33	2,296	6.3
5.0	4.4	0.6	6.05	0.49	12.5	3.91	379.8	30.3	15.1	3.45	1,714	1.2
5.1	4.3	2.5	4.47	0.30	15.2	3.14	140.7	2.20	6.5	1.59	2,196	0.7
5.2	4.6	1.3	5.30	0.48	11.0	3.17	391.9	4.63	5.6	4.42	1,206	2.4
5.3	4.5	1.9	5.28	0.40	13.1	4.14	363.3	4.89	6.8	3.14	1,910	3.3
4.5	3.7	11.3				2.35	194.2	5.92	2.96	2.94	1,008	1.1

保 全 対 策 区	土 壌 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					礫 (風乾物中) W %	風 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	における 100cc 容中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
リ ビ ラ 保 全 対 策 区	川 合	S 4 1	1	0~15		2.8	67	50.1	23.3	73.4	17.1	9.5	S L					
			2	17~31		7.6	9.3	9.5	35.7	45.2	38.5	16.3	C L					
			3	31~42		10.3	7.9	13.2	49.9	63.1	29.2	7.7	L					
			4	42~58		9.1	7.2	16.0	55.2	71.2	22.2	6.6	S L					
			5	58~70		7.2	6.6	17.1	56.0	73.1	21.8	5.1	S L					
	S 4 3	1	0~20		2.9	7.4	48.5	23.8	72.8	19.3	8.4	S L						
		2	28~40		5.8	10.9	1.2	54.9	56.1	32.9	11.0	L						
		3	40~54			8.4												
		4	54~															
	S 7 2	1	0~15		4.0	8.5	48.8	24.9	73.7	17.8	8.5	S L						
		2	15~25		7.5	15.4	18.5	27.9	46.4	24.8	28.8	LiC						
		3	25~45		6.1	8.4	28.7	29.6	58.3	22.9	18.8	C L						
	西 川	S 4 2	1	0~16		4.0	7.3	30.5	27.3	57.8	25.5	16.6	C L					
			2	16~26		4.5	4.3	6.3	31.8	38.1	31.5	30.5	LiC					
			3	26~46		4.8	2.8	5.4	32.1	37.5	30.2	32.2	LiC					
S 6 5	1	0~15		2.1	7.4	62.2	16.4	78.6	16.4	4.9	S L							
	2	15~21		8.7	15.7	16.2	28.5	44.7	30.9	24.4	C L							
	3	21~		6.6	6.8	10.9	59.4	70.3	25.8	3.9	S L							
節 婦	n 8	1	0~14		3.2	3.5	65.6	16.1	81.7	16.6	1.7	S L						
		2	19~34		13.6	8.6	8.7	29.7	38.4	43.2	18.4	C L						
		3	34~56		13.0	5.5	12.2	49.9	62.1	35.2	2.7	L						
		4	56~76		8.5		11.4	53.3	64.7	25.3	10.0	L						
		5	76~		9.2		7.1	14.2	21.3	25.2	53.5	H C						
n 1 1	1	0~23		5.2	5.6	50.4	18.9	69.3	23.5	7.2	S L							
	2	23~63		13.8	9.5													
	3	63~		11.3	3.7	17.6	50.0	67.6	26.0	6.4	S L							
出 原	S 6 7	1	0~22		2.7	7.9	48.2	22.2	70.4	21.6	8.0	S L						
		2	22~47		7.3	13.2	17.7	28.0	45.7	47.6	6.7	SiL						
上 豊 畑	S 6 4	1	0~25		2.4	6.1	62.0	19.1	81.1	15.2	3.7	S L						
		2	30~62		7.0	12.7	12.3	30.8	43.1	35.2	21.7	C L						
	S 6 6	1	0~21		3.0	8.0	63.9	17.0	80.9	14.0	5.1	S L						
2	21~40		5.7	10.7	9.7	38.0	47.7	39.2	13.1	L								
朝 日	n 1	1	0~17		2.2	3.0	76.1	12.6	88.7	8.0	3.3	L S						
		2	28~40		6.9		16.7	24.8	41.5	32.2	26.3	LiC						
		3	40~65		6.7		16.4	26.0	42.4	35.3	22.3	C L						
		4	65~		6.5		4.1	35.3	39.4	30.6	30.0	LiC						
n 1 7	1	0~16		3.1		59.1	24.0	83.1	12.2	4.7	S L							
	2	23~55		12.2	8.8						L P							
n 2 1	1	0~17		3.5	4.2	61.5	16.2	77.7	17.8	4.5	S L							
	2	19~35		3.9	2.5	4.2	51.2	55.4	25.5	19.1	C L							
	3	35~58		7.0	5.1	10.4	45.3	55.7	23.7	20.6	C L							

化 学 性													
PH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 置 換 容 量 me /100g	直 換 性 塩 基 100g中			飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有效態 mg /100g P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	
H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C /N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
5.5	4.6	1.3	3.98	0.26	15.5	15.8	15.23	5.8	12.3	3.42	892	0.3	
5.2	4.5	1.9	5.84	0.47	12.6	32.9	257.3	20.0	7.4	23.0	1,982	0.2	
5.2	4.6	2.5	5.10	0.38	13.4	30.6	9.38	14.4	3.1	10.8	2,340	0.3	
5.3	4.6	1.9	4.61	0.32	14.4	30.1	9.87	14.2	3.1	11.6	2,294	0.5	
5.4	4.7	1.3	4.11	0.25	16.6	14.4	6.65	17.4	3.0	16.7	2,304	3.2	
5.6	4.9	1.3	4.45	0.33	13.5	22.5	366.2	20.8	54.2	58.2	776	0.5	
5.1	4.6	1.3	6.71	3.93	17.1	41.4	446.7	17.1	11.2	38.4	1,488	1.2	
5.4	4.7	2.5			18.0	68.5	925.3	46.4	15.0	48.0	480		
						21.0	182.3	10.1	10.5	31.0	1,500	0.1	
5.4	4.7	2.5	5.13	0.36	14.1	30.2	298.0	4.63	33.1	35.1	1,296	0.3	
4.8	4.0	10.0	9.65	0.64	15.1	85.4	460.7	87.1	8.4	19.2	2,330	0.3	
5.1	4.1	8.8	5.21	0.31	16.9	31.5	71.7	37.8	3.8	8.3	2,070	0.2	
4.7	4.1	3.8	4.40	0.23	15.1	25.4	222.1	25.2	23.1	31.1	822	0.4	
4.8	4.0	13.8	2.60	0.16	16.5	20.7	110.4	5.0	33.9	18.8	1,180	0.3	
4.7	4.0	13.8	1.69	0.12	14.6	17.6	82.4	15.2	26.7	16.5	1,206	4.4	
5.7	5.1	1.3	4.38	0.35	12.6	19.6	446.6	33.2	16.7	81.1	766	1.7	
5.0	4.2	2.5	9.76	0.79	12.6	71.2	669.4	30.9	23.0	33.6	2,034	0.7	
5.2	4.6	1.9	4.24	0.30	14.2	22.5	48.0	56.1	17.5	7.6	2,234	0.3	
5.3	4.6	1.3	2.05	0.10	20.5	14.1	249.1	11.1	13.0	63.1			
5.3	4.2	3.1	4.98	0.22	22.6	51.0	487.3	52.8	15.2	34.1			
5.1	4.1	6.3	3.20	0.14	22.9	28.2	27.1	12.2					
5.2	4.1	3.1				14.0	49.7	8.3					
5.0	3.6	27.5				21.6	174.9	61.8					
5.1	4.2	2.5	3.25	0.17	19.1	29.3	418.8	28.5	20.4	50.8	1,148	8.3	
5.2	4.3	3.8	5.50	0.32	17.2	66.5	484.3	60.0	5.7	26.0	2,537	7.2	
5.4	4.3	1.9	2.17	0.12	18.1	13.8	47.4	2.7	6.2	12.3	2,227	9.1	
4.9	4.2	2.5	4.70	0.35	13.4	23.7	132.6	23.2	6.2	19.8	1,112	1.1	
5.0	4.2	7.5	8.30	0.53	15.7	47.5	55.7	29.6	4.6	4.2	2,418	0.3	
5.3	4.6	0.6	3.65	0.23	16.2	14.4	166.7	16.5	10.3	41.0	730	0.4	
5.2	4.4	1.3	7.92	0.45	17.5	59.1	451.0	46.8	4.28	27.2	2,200	0.2	
5.7	5.2	1.3	4.83	0.37	13.0	19.2	364.3	32.4	15.3	67.7	756	4.1	
5.4	4.8	1.3	6.59	0.35	18.8	40.3	630.1	64.1	31.4	55.8	2,034	0.5	
5.3	4.4	1.3	1.73	0.10	17.3	15.5	106.4	7.1	6.8	24.5	546	3.1	
5.3	4.3	1.9				37.5	637.1	21.6	25.1	60.5	1,416	4.3	
5.5	4.2	2.5				23.0	246.6	28.2	20.7	38.3	1,589	3.6	
4.7	3.5	30.0				27.3	224.2	42.9	12.6	29.3	1,176	3.8	
5.1	4.2	3.1				16.3	189.9	35.2	14.6	41.7	782	9.4	
4.9	3.9	7.5	5.13	0.40	12.8	57.0	429.9	13.9	13.2	26.8	2,271	9.1	
4.8	3.8	2.5	2.47	0.15	16.5	15.5	153.9	9.6	7.0	35.5	744	9.8	
5.0	3.9	3.1	1.48	0.07	21.1	21.8	315.0	40.3	10.4	51.4	764	5.4	
4.9	3.9	6.3	2.98	0.16	18.6	27.2	248.4	47.3	8.1	32.7	1,387	7.2	

畑 その3

保全 対策 区	土 壌 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					隙 (風乾物中) w %	風 乾 土 中		細 土 無 根 物 中					土 性	における100cc容中				
						水 分 %	腐 植 %	粗 碎 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 ♀	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
リビラ 保全 対策 区	S48	1	0~13		2.8	5.7	34.6	320	66.6	21.0	12.3	S L						
		2	28~36		4.3	7.6	3.9	29.5	33.4	40.4	26.2	LiC						
		3	36~		4.3	3.9	1.6	28.8	30.4	40.6	29.1	LiC						
	S69	1	0~32		3.1													
		S70	1	0~9		3.4	8.7	55.1	22.5	7.76	13.8	8.6	S L					
			2	16~23		6.0	9.0	6.8	29.8	3.66	39.6	23.8	C L					
			3	23~44		5.1	7.8	5.6	3.46	40.2	40.6	19.2	C L					
	豊畑 保全 対策 区	高江	n23	1	0~25		3.3	3.1	43.1	18.7	6.18	2.58	L					
2				36~50		4.0	2.2	9.9	48.0	5.79	24.5	17.6	C L					
n24			1	0~20		3.8	6.7	40.3	18.5	5.88	2.38	17.4	C L					
			2	20~47		7.2	6.0	7.2	2.18	29.0	3.66	34.4	LiC					
n26			1	0~30		3.0	3.6	30.0	39.2	6.92	1.77	13.1	S L					
			2	30~63		2.1		28.9	55.1	8.40	8.7	7.3	S L					
S53		1	0~20		2.0													
		2	28~52		2.7													
S59		1	0~20		3.0													
		2	20~55		3.0													
S60		1	0~20		2.5	6.7	5.39	20.6	7.45	1.79	7.7	S L						
豊畑		n47	1	0~11		2.0	3.1	39.9	27.6	6.75	1.67	15.8	SCL					
			2	11~19		2.2	2.9	51.6	21.2	7.28	1.56	11.6	S L					
			3	22~34		4.7	1.8	7.9	3.85	4.64	2.97	23.9	C L					
	4		34~65		4.2	1.8	3.4	5.63	5.97	2.00	20.3	C L						
	S50	1	0~20		3.3	2.5	1.3	3.44	3.57	4.47	1.96	C L						
		2	20~43		3.5	2.1	0.5	2.81	2.86	5.11	20.3	SiCL						
農屋	n48	1	0~15		3.5	4.0	2.28	40.7	6.35	2.27	1.38	L						
	S49	1	0~15		4.1	5.0	2.70	2.66	5.36	2.36	2.28	C L						
	n51	1	0~16		3.3	3.3	1.40	40.3	5.43	2.96	1.61	C L						
駒場 保全 対策 区	浦和	n22	1	0~20		2.0												
		n31	1	0~48		4.8	1.4	1.86	2.52	4.38	2.88	2.74	LiC					
		n41	1	0~23		3.1	3.4	5.14	2.21	7.35	1.87	7.8	S L					
			2	36~53		4.9	1.3	3.0	3.99	4.29	3.68	20.2	C L					
	S32	1	0~25		3.1													
	S37	1	0~21		4.6	3.5	7.3	30.3	3.76	3.24	30.0	LiC						
	駒場	n15	1	0~23		4.7		5.70	1.79	7.49	1.83	6.8	S L					
			2	23~		1.54	4.28						L P					
S5		1	0~16		3.9		2.29	2.70	4.99	4.56	4.5	SiL						
	2	16~37		5.1		4.68	1.91	6.59	2.23	11.8	S L							
	3	37~81		11.8														

化 学 性

PH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩 置 換 容 量 me /100g	置 換 性 塩 基 100g 中			飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有效態 mg /100g P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>
H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C /N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
5.0	4.4	3.8	3.39	0.27	15.7	185	315.1	297	7.2	60.5	678	0.2
5.5	4.7	1.3	4.59	0.27	16.9	39.1	635.3	78.4	5.2	58.1	1,400	1.3
5.3	4.6	2.5	2.36	0.16	15.1	28.6	451.2	103.7	9.6	56.3	1,296	4.3
5.1	4.4	2.5				22.7	208.4	58.2	13.2	32.6	1,878	0.1
5.3	4.6	0.6	5.22	0.41	12.0	27.9	557.2	50.1	35.4	71.3	852	0.6
5.3	4.5	1.9	5.58	0.36	15.4	45.8	453.5	82.4	14.5	35.4	1,678	0.1
5.0	4.2	7.5	4.83	0.27	17.5	36.9	212.8	59.4	20.0	20.6	1,722	0.5
5.0	4.2	10.0	2.10	0.10	20.2	21.8	151.6	54.5	31.2	24.8	1,060	0.3
4.8	3.8	3.8	1.82	0.11	16.5	17.7	171.4	16.0	12.2	34.5	529	3.8
4.7	3.7	7.5	1.28	0.07	18.3	22.3	245.1	48.4	14.8	39.0	611	5.9
4.6	3.8	3.8	4.05	0.31	12.8	21.8	275.5	21.0	13.1	44.9	624	4.2
4.8	3.8	3.8	3.75	0.28	13.2	27.7	437.8	23.3	19.1	56.3	774	4.2
5.8	4.9	1.9	2.12	0.15	14.1	19.9	423.0	55.9	83.0	75.9	243	8.8
5.5	4.3	0.6				11.6	198.6	39.6	59.4	61.2	596	3.8
4.8	4.0	3.8				18.4	194.5	24.7	12.6	37.5	634	1.1
5.3	4.4	0.6				20.1	209.8	149.1	11.9	37.3	546	0.6
4.9	4.1	3.8				26.8	289.1	33.3	6.6	38.4	912	2.3
5.0	4.1	11.3				19.6	127.2	29.1	5.2	23.0	1,286	0.5
4.8	4.2	2.5	3.98	0.27	14.9	15.4	132.4	16.5	4.3	30.5	660	1.5
5.3	4.1	5.5	1.78	0.13	13.7	16.2	226.6	13.7	10.8	55.6	782	3.7
6.1	4.8	0.5	1.71	0.11	15.5	13.2	227.7	25.8	16.8	74.2	713	5.4
5.9	4.3	1.0	1.07	0.09	11.9	25.0	517.4	87.9	37.4	94.4	1,051	6.4
5.9	4.3	1.0	1.02	0.07	14.6	33.4	482.3	57.2	30.0	61.7	958	5.3
5.7	4.4	1.3	1.48	0.14	10.3	20.1	343.3	30.9	36.0	60.7	712	2.9
5.5	4.3	2.5	1.27	0.12	10.3	21.3	371.8	108.6	29.6	62.4	826	2.5
5.5	4.2	2.5	2.32	0.15	15.5	18.2	281.5	52.4	16.2	70.9	856	6.0
4.8	4.0	3.8	3.00	0.28	10.7	24.0	351.0	96.7	13.4	52.1	722	0.9
5.4	4.3	1.3				11.0	164.5	22.9	12.8	53.6	559	5.1
4.5	3.6	2.5	0.83	0.06	13.8	18.1	258.5	41.3	28.7	70.7	424	10.2
5.6	4.8	1.3	1.95	0.15	13.0	14.5	324.0	28.7	28.2	79.3	1,592	7.8
4.8	3.7	8.1	0.73	0.07	10.4	19.8	309.6	30.9	44.1	55.6	783	2.1
4.9	4.1	3.1				14.9	225.7	83.2	28.7	53.7	518	1.7
4.9	4.1	2.5	2.13	0.20	10.7	25.6	282.1	18.5	75.2	39.5	732	1.1
4.4	3.7	7.5				25.0	180.8	9.7	6.1	25.6	1,284	11.4
4.2	3.2	7.5	2.491	1.46	17.1	94.6	673.2	50.1	9.7	25.4	1,151	8.3
5.0	4.2	1.3				26.9	298.9	9.15	11.2	39.8	956	21.4
5.4	4.8	1.3				20.6	248.2	6.38	8.4	43.2	858	22.7
5.2	4.5	0.6				9.05	111.29	228.6	13.0	43.9	978	10.2